

いつも誰かのオアシスに



社是

創意工夫

森島 雄

『創意工夫の精神で、これからも社会にうるおいを』

SANKYOは、健全なレジャーの発展と
心豊かな社会づくりに貢献する
企業グループを目指します。

CONTENTS •

SANKYOについて

- 01 社是・目次
- 03 沿革
- 05 ご挨拶
- CEOメッセージ
- 09 価値創造プロセス
- 11 SANKYOの強み
- 13 中期経営計画の進捗



17 特集：新プロジェクト・新企業CM

サステナビリティ

- 19 サステナビリティの取り組み
- 22 E（環境）
- 27 S（社会）
- 31 G（ガバナンス）



財務セクション・その他

- 38 2025年3月期経営成績の概況
- 41 連結経営指標
- 42 ESGデータ
- 44 財務・市場データ
- 46 連結財務諸表
- 50 会社情報／株式情報



編集方針

本レポートは、当社グループの業績や事業戦略などの財務情報及び環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報を発信し、株主・投資家をはじめとする全てのステークホルダーの皆様に、ご理解を深めていただくことを目的として発行しています。

対象期間

2024年度(2024年4月～2025年3月)

*一部取り組みについては、2025年4月以降の内容を含みます。

見通しに関する注意事項

本報告書には、当社グループにおける将来の計画や戦略、業績に関する見通しの記述がされていますが、これらの内容は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、事業変化によるリスクや不確定な要素が含まれております。そのため、実際の業績が記載されている内容と大きく異なる可能性があることをご承知ください。

沿革

Pioneering a New Era with the Spirit of Ingenuity

SANKYOは業界のトップランナーとして、多くの革命をもたらし、心を動かすエンターテインメントを提供し続けています。



1966
会社設立
愛知県名古屋市

1967
SANKYOパチンコ機
第一号機「飛鳥」発表



1981
本社移転
群馬県桐生市

1980
超特電機 フィーバー
トップ企業の仲間入り



1991
株式店頭公開

1995
東証第2部上場

1996
株式会社大同
(現株式会社ビスティ)
を子会社化

1980
超特電機 フィーバー
トップ企業の仲間入り

1997
東証第1部指定替え



伝説の
「フィーバー機」
を始め数多くの名機が
続々誕生

**上場会社として
さらなる飛躍**

1999
パチスロ メイクエ
パチスロ事業に新規参入



生産・物流の集中拠点
として安定した供給体制を確立

2001

三和工場を開設
群馬県伊勢崎市



2008

本社移転
東京都渋谷区

「機動戦士ガンダム」
など人気アニメタイアップ機
が続々登場

2012

株式会社ジェイビー
を子会社化

2009

研究開発棟を
開設

東京都渋谷区



2004

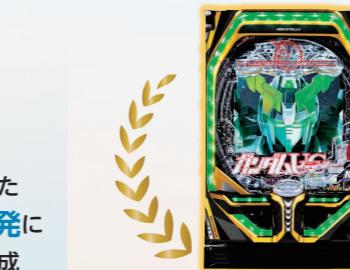
「新世纪エヴァンゲリオン」
発売、大ヒット



©GAINAX/Project Eva.・テレビ東京
©Bisty ©Fields
アニメ等との
タイアップ製品が業界内外で
一大ムーブメントを巻き起こす

2022

「フィーバー機動戦士ガンダム
ユニコーン」が「ファン」が選ぶ
パチンコ・パチスロ大賞2021」
パチンコ大賞2021を受賞



フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン
©創通・サンライズ

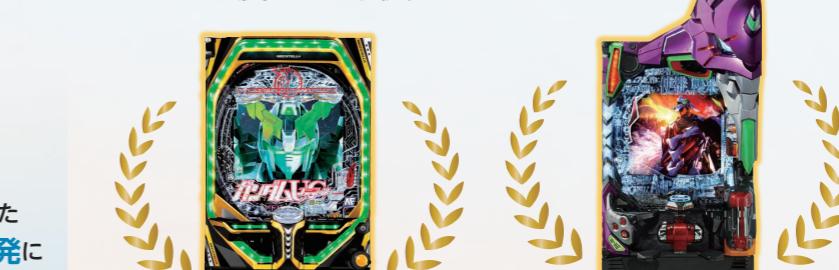


最新技術を駆使した
遊技機の研究開発に
特化した施設が完成



2023

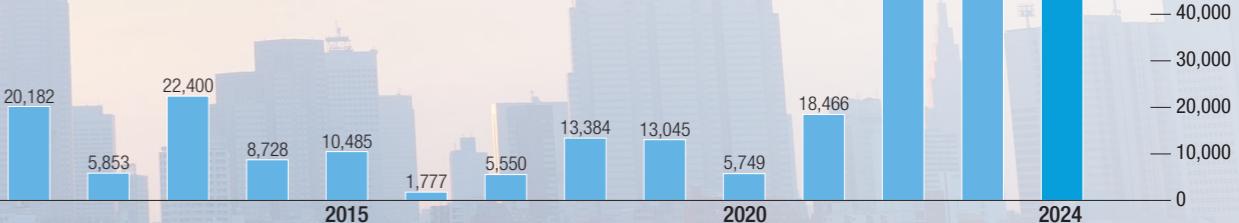
「新世紀エヴァンゲリオン
～未来への咆哮～」が
「P-WORLDパチンコ・パチ
スロアワード2022」
GOLDを受賞



新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～
©カラー ©Project Eva.
©Bisty ©Fields



2024



2025

パチンコ・パチスロの両方
でトップシェアを獲得し、
業界初の快挙を達成

2025

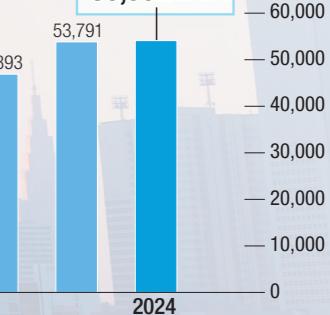
eフィーバーからくり
サーカス2 魔王ver.」が
「ファン」が選ぶパチンコ・
パチスロ大賞2024」
パチンコ大賞2024を受賞



eフィーバーからくりサーカス魔王ver.
原作／藤田和日郎「からくりサーカス」(小学館少年
サンデーコミックス刊)／©藤田和日郎・小学館／
ソインエンジン Licensed by Sony Music Labels Inc.

2024年度

53,992 百万円



Topics

パチンコ機主な筐体枠の変遷

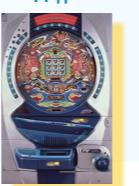
~1980年代

最初の台枠は木製のシンプルなもので、レバーで玉を
弾くことで打ち出していました。

1977年
手打ち台枠1977年
電動ハンドル初期枠1980年
電動ハンドル初期枠

1990年代

1990年代に入ると、シンプルな遊技機に「デザイン」と
いう概念を取り入れた枠が登場しています。

1992年
ステラ枠1994年
NASUKA枠1995年
FF枠

2000年~2010年代前半

2000年代には、演出に合わせて操作するチャンスボタンやレバーが搭載され、
機能面でも大きな進化を遂げています。

2000年
竜巻枠2002年
VICTORY枠2004年
ルミナ枠2007年
クリステラ枠2009年
V-TRIGGER枠2013年
EVOL枠

2010年代後半~2024年

デザイン性の進化とともに、ハンドルを中央に配置し、左右どちらの手
でも操作できる快適性と利便性を追求した新たな枠が登場しています。

2015年
FORTUNE枠2019年
NEO STELLA枠2023年
フリーダム枠



取締役会長

嘉定府行



代表取締役社長
CEO 兼 COO

小倉敏男



代表取締役副社長執行役員
経営企画部管掌

高橋博史

創意工夫の精神で、これからも社会にうるおいを

1966(昭和41)年に設立した私どもSANKYOは、社是である『創意工夫』の精神のもと、パチンコメーカーとして業界標準となる数多くのヒット機種を市場投入し、業界のリーディングカンパニーとして産業とともに発展してまいりました。これからも、当社グループは積極的な商品開発投資を行い、独創的でエンターテインメント性に富んだ最高の遊技機や関連サービスを提供することで社会にうるおいを与え、継続的な事業伸長とともに産業全体の発展に努めてまいります。

CFOメッセージ

社長就任のご挨拶 — 変革期に挑む新たな決意

このたび2025年6月に代表取締役社長に就任いたしました
小倉敏男です。

当社は昨年度、第60期という、人に例えれば「還暦」という大きな節目を迎え、これまで積み上げてきた歴史と伝統の重みを改めて実感しています。そして今、パチンコ・パチスロ業界は、スマート遊技機への移行という転換期にさしかかると同時に、歯止めがかかるないパーラー店舗数やファン人口の減少という困難を乗り越えなければならない重要な局面を迎えていました。こうした重要な変革期に社長を拝命したことに、身の引き締まる思いはもちろん、次の時代へと新しい価値を創造していく強い決意を胸にしています。

私の使命は、過去の歩みから得た経験や知見を礎に、変化を前向きなチャンスと捉え、当社の持続的な成長を実現することです。強固な経営基盤を築き上げるとともに、いかなる市場環境下においても企業の安定と信頼を維持しつつ、新たな価値の創造に挑戦し続けてまいります。そしてリーディングカンパニーとして業界を牽引し、さらなる繁栄に貢献すべく、あらゆる課題に真正面から立ち向かい、スピード感を持って決断・実行してまいります。これからの歩みが、将来の世代へつながる礎となるよう、一歩一歩着実に、そして果敢に挑んでまいります。

受け継がれる「創意工夫」の精神 — 革新の原動力として

私は入社以来、遊技機に関する発明の発掘や特許の出願・権利化、さらには知的財産の活用に関わる契約業務など、長年にわたり知的財産部門に携わり、2022年からは、これまでの経験を基に、パチンコ・パチスロの商品開発全般の指揮を執ってまいりました。これら現場に携わる中で、私が実感してきたのは、当社がこれまで築き上げてきた多くのアイデアや開発成果の源泉には、常に社是である『創意工夫』の精神が息づいているということです。この理念は、創業以来一貫して受け継がれてきた、不变の価値観であり、既成概念や慣習にとらわれることなく、自ら考え、常に新しい価値を生み出す強い意志を示すものです。

『創意工夫』の精神は、単なる技術革新や商品開発にとどまらず、組織運営や人材育成といった企業活動のあらゆる側面に根付き、そして何より、変化の激しい経営環境においても、私たち自身が進化し続けるための力の源となっています。これからも私たちは、この精神を次の世代へと確実に継承し、時代の変化とともに深化させてまいります。その積み重ねこそが、持続的な競争力と企業価値を生み出し、市場の成熟や競争の激化といった環境下でも、革新的なアイデアで常に時代の一歩先を切り拓いていく礎になると考えています。

変化を機会に — 環境変化を成長へ導く開発力

当社が展開する遊技機事業は、規制をはじめとする外部環境の大きな変化に常に直面しています。私たちはこれらの変化を次なる成長への絶好の機会と受け止め、新たな価値創造の原動力としてきました。幾度となく訪れる規制の変化のたびに、枠にとらわれない発想と変化に対応する開発力で新商品を世に送り出し、パチンコ市場で長年にわたりトップグループの地位を確立してまいりました。近年では、2018年の遊技機規則改正によって実現したスマート遊技機の登場が、業界にかつてない変革の波をもたらしました。当社は2022年秋にいち早くスマスロ市場へ進出し、販売した「パ

チスロ「革命機ヴァルヴレイヴ」は大ヒット機種となり、当社がパチスロメーカーとして存在感を示すきっかけとなりました。こうした挑戦が、パチンコ・パチスロ両市場における当社の存在感と影響力を一層高めています。

これからも当社は、環境変化の兆しをいち早く掘み、培ってきた商品開発力とスピード感、そして果敢な挑戦心をもって、更なるイノベーションを創出してまいります。変化を恐れず、常に時代の先頭に立つリーディングカンパニーとして、持続的な販売シェア向上と市場での優位性を確立してまいります。

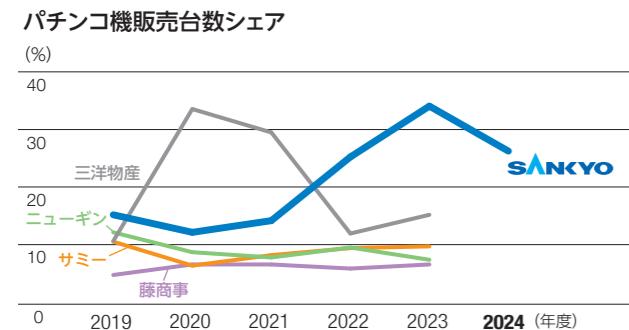
持続的成長を支える二本柱 — パチンコの盤石な基盤とパチスロの飛躍

当社の最大の強みは、長年にわたり築き上げてきたパチンコでの搖るぎない信頼と実績にあります。業界トップクラスの地位を確固たるものにしてきたその歩みが、当社の持続的な成長を支えてきました。一方、今後の成長を加速させる原動力として、パチスロ事業における挑戦を一層強化しています。当社はスマスロの登場を契機に、複数のヒット商品を創出し、パチスロ市場の活性化と稼働改善を力

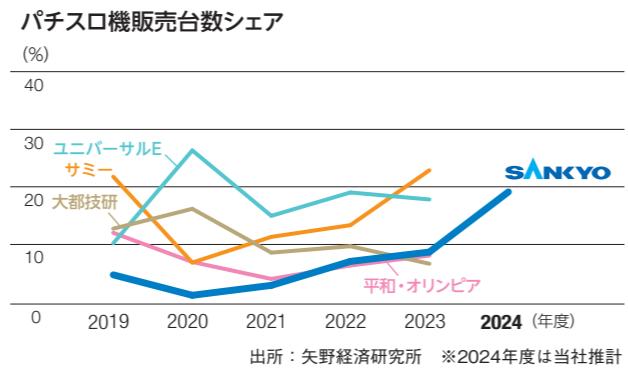
強くリードしてまいりました。これにより、当社のパチスロ事業は飛躍的な成長を遂げ、業界内での存在感が大きく高まっただけでなく、パチンコ事業への依存度が高かった経営構造から脱却し、売上・利益のバランスが改善され、経営基盤の安定化とさらなる成長の好循環を生み出すことができました。

今後も、パチンコ事業では確かな収益基盤を堅持すると

ともに、パチスロ事業では斬新なゲーム性・新しい価値の創出に挑み、多様なファン層を獲得してまいります。これら



二本柱のバランスと相乗効果をもって、当社は業界をリードし、持続可能な成長を実現してまいります。



出所：矢野経済研究所 ※2024年度は当社推計

本質を見失わず、課題を克服する

アニメを中心としたタイアップ商品が主流となる中、デザイン性に優れたギミックや外観、さらには液晶演出など、エンターテインメント性を追求した遊技機が一層求められる時代となりました。加えて、原価や研究開発費の高騰、メーカー間の競争激化による製品の高付加価値化などにより、販売単価の上昇という課題も顕在化しています。その結果、これらの負担がファンやパーラーに及び、パーラー店舗数や遊技人口の減少といった構造的課題が長期化してしまっている現状を、私たちは真摯に受け止めなければなりません。私たちが最も重視しなければならないのは、技術の競い合いかだけではありません。遊技機を取り扱うパーラー、そして何よりもその遊技機を楽しむファン一人ひとりの期待に、どれだけ応えられるかが本質であると考えています。

こうした課題に対し、当社は企業としての責任を果たすべく、コスト削減への取り組みに一層注力してまいります。

コンテンツ産業との共創が切り拓く新たな価値創造

当社は、アニメや漫画をはじめとするコンテンツ産業との共創を積極的に推進し、新たな遊技体験の創出に注力してまいりました。近年では、若年層を中心に人気のあるIPとタイアップした商品を積極的に展開し、当社のブランド力や販売シェアの向上にも大きく貢献しています。さらに、IPを活

用して遊技機は、これまで十分にアプローチできなかった層への訴求や、既存ファンの皆さんにさらなる満足感を与え、業界全体の活性化にも寄与しています。

一方で、販売シェアを着実に高めていくためには、新規IPの積極的な活用のみならず、シリーズ機として継続的に

展開していくことが極めて重要です。遊技機は、パーラーへの導入後に高い稼働実績を残すことで、次回作への期待感が高まり、それが販売台数の拡大へつながります。当社グループを代表する「機動戦士ガンダム」シリーズや「エヴァンゲリオン」シリーズは、その豊富な販売・稼働実績を背景に、新作発表のたびにファンやパーラーから大きな期待を集めてきました。現在、こうした代表シリーズに次ぐ新たなシリーズ機も徐々に育ちつつあり、多様なラインナップの拡充によって、当社グループの販売シェアはさら

に強固なものとなりつつあります。

当社はアニメ業界をはじめとしたさまざまな企業との協力体制を深化させ、互いのブランド価値を高め合う共創体制を構築しています。とりわけ、IPホルダーの皆さまとは、搖るぎない信頼と強固なパートナーシップを築くことができたり、共創による価値最大化を図っています。当社のヒット機種がパチンコ・パチスロの枠を超えて、アニメやエンターテインメント業界全体へと好影響をもたらし、日本のコンテンツ産業全体の発展にも寄与できるものと信じています。



フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン
再来-白き一角獣と黒き獅子-
©創通・サンライズ



フィーバーブルーロック
©金城宗幸・ノ村優介／講談社 ©金城宗幸・
ノ村優介・講談社／「ブルーロック」製作委員会



フィーバー炎炎ノ消防隊2
©大久保篤／講談社 ©大久保篤・講談社／
特殊消防隊動画広報課

ステークホルダーの皆さんへ — リーディングカンパニーとしての責任と誇りを胸に

当社は創業以来60年、幾多の試練や困難に直面しながらも、堅実に歩みを進めてまいりました。こうして今日まで事業を継続し成長を重ねてこられたのは、株主の皆さんをはじめ、業界関係者やファンの皆さん、そしてすべてのステークホルダーの皆さんの温かいご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。

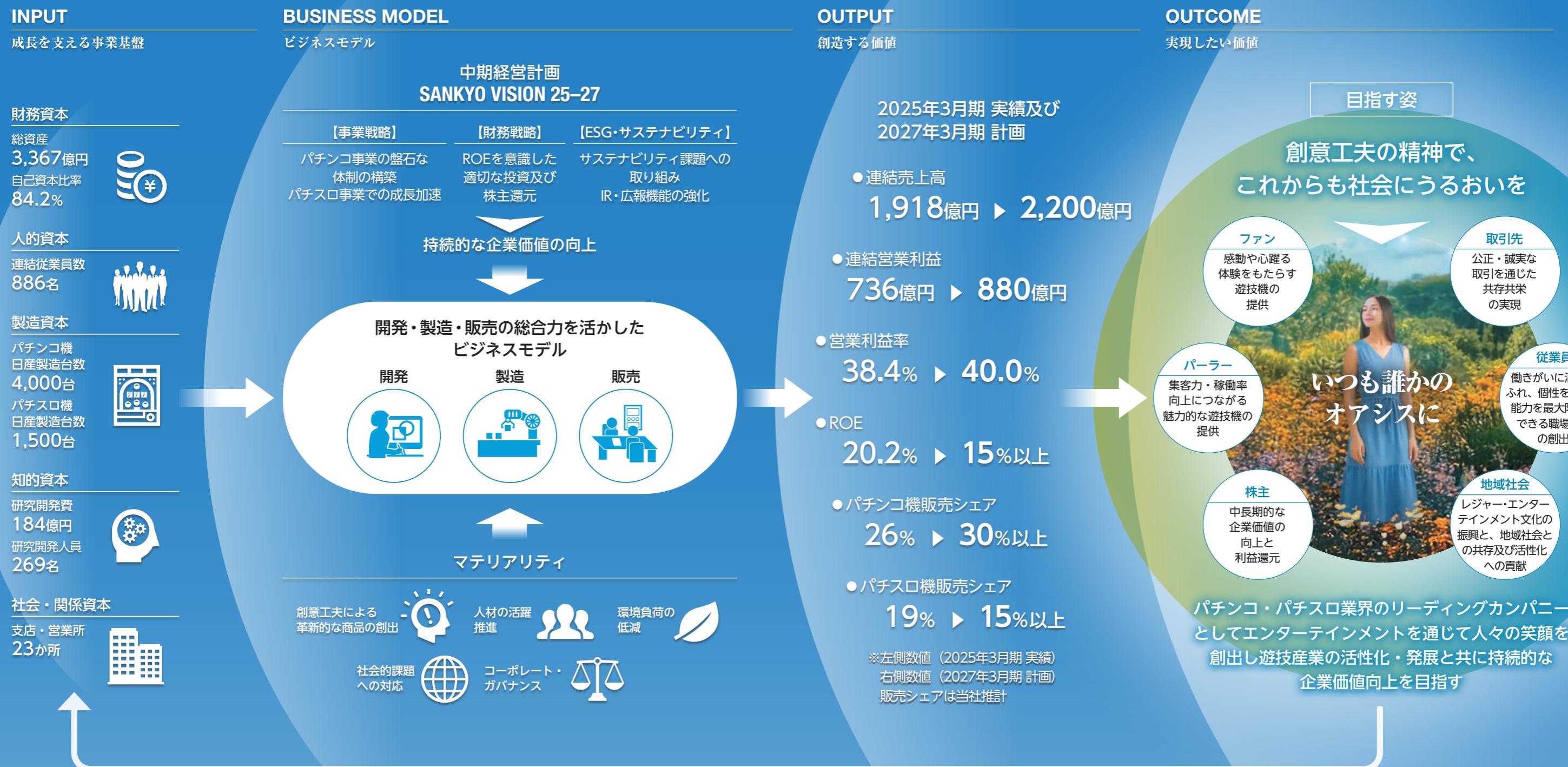
パチンコ業界は時に大きな逆風に晒されてきましたが、その逆境の中から生まれた数々の名機が業界を支え、その象徴の一つが当社の「フィーバー」です。パチンコは、日本を代表するエンターテインメントであると強く信じています。その「面白さ」や「ワクワク感」をさらに多くの人に拡げて

いくことこそ、私たちの最大の使命でもあります。これからも、多くのファンの皆さんに新たな感動と笑顔をお届けすることをお約束いたします。そして、歴史に名を刻む名機の創出を通じて、業界の持続的な発展に貢献してまいります。これこそが、リーディングカンパニーとしての責任であり、私たちの誇りであります。

人生に彩りとうるおいをもたらすエンターテインメントの未来を切り拓くべく、全社一丸となって挑戦を続けてまいります。今後の当社の更なる成長と飛躍にご期待いただくとともに、引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

価値創造プロセス

当社は、社是である「創意工夫」を根幹として、創業以来培ってきた経営資本を活かしながら独自のビジネスモデルを実践することで成長を遂げてまいりました。今後も、経済的価値と社会的価値を同時に創出することで企業価値の最大化を図ってまいります。



SANKYOの強み

Flagship Series

フラッグシップシリーズと多彩なラインナップ

SANKYOグループを代表し、長年にわたりて強固な支持を受けてきた定番シリーズ機種をはじめ、近年に新規タイアップした機種の中においても、主力シリーズへと成長したタイトルを有しており、これらラインナップの充実が当社グループの競合優位性を高めています。

※累計販売台数はパチンコ機のみを対象としています。

『新世紀エヴァンゲリオン』

シリーズ

累計販売台数 **205**万台



『機動戦士ガンダム』

シリーズ

累計販売台数 **39**万台



『戦姫絶唱シンフォギア』

シリーズ

累計販売台数 **17**万台



New Series

『炎炎ノ消防隊』

シリーズ



『からくりサーカス』

シリーズ



変化に強い開発力と業界ナンバーワンのリリースタイトル数

当社グループは、業界のリーディングカンパニーとして、他社に先駆けた「業界初」の機種を数多く世に送り出しており、規則改正などへの対応力においても確かな実績を有しています。さらに、規制対応にとどまらず、ハード面においても従来の業界常識を覆す革新的な技術・仕組みを生み出すことで、ファン・パーラーから高い支持を獲得しています。

規制変化への対応実績やハードの進化 >>>

2021年12月～
スマートハンドル



新世紀エヴァンゲリオン
～未来への咆哮～

2022年11月～
スマートパチスロ



パチスロ 革命機
ヴァルヴレイヴ

2024年8月～
ラッキートリガー
超デカSTART



eフィーバー機動戦士
ガンダムユニコーン
再来・白き一角獣と黒き獅子-

2024年11月～
ラッキートリガー2.0



eフィーバー
からくりサーカス2
魔王ver.

2025年7月～
ボーナストリガー
3.0プラス



L Bパチスロ
エヴァンゲリオン
炎炎ノ消防隊2
～約束の扉～



eフィーバー
炎丸ver.



eフィーバー
ブルーロック

業界屈指の投入タイトル数

当社グループが、年間に投入するタイトル数は業界屈指の水準であり、ファンの多様化する嗜好やニーズに応えています。

各社販売タイトル数
(パチンコ[リユースを含む]、パチスロ合計)
(タイトル)



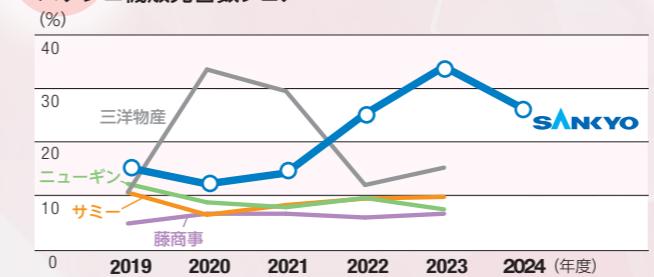
築き上げたブランド力とトップシェア

ファン・パーラーからの信頼により築かれるブランド力は、商品を投入し、優れた稼働実績を残すことで高まります。当社グループは、こうしたポジティブなサイクルを作ることで、後続機種の販売にも勢いが生まれ、結果としてブランド力の強化と販売シェアの向上を実現しています。このサイクルを継続的かつ効果的に循環させることで、業界内での確固たる地位を築いています。



3期連続トップシェアを獲得

パチンコ機販売台数シェア (%)



初のトップシェアを獲得

パチスロ機販売台数シェア (%)



【出典】
[eフィーバープルーロック] ©金城宗幸・ノ村優介・講談社 ©金城宗幸・ノ村優介・講談社「ブルーロック」製作委員会 「eフィーバー炎炎ノ消防隊2 紅丸ver.」 ©大久保篤・講談社 ©大久保篤・講談社「特殊消防隊動画広報課 「L Bパチスロ エヴァンゲリヲン ~約束の扉~」 ©カラー ©Bisty ©Fields 「e東京喰種」 ©石田スイ／集英社・東京喰種製作委員会 ©Bisty ©Fields 「eフィーバー戦姫絶唱シンフォギア4 キャロルver.」 ©Project シンフォギアGX ©Project シンフォギアXV 「eフィーバーからくりサーカス2 魔王ver.」 原作／藤田和日郎「からくりサーカス」(小学館少年サンデーコミックス刊) / ©藤田和日郎・小学館／ツインエンジン Licensed by Sony Music Labels Inc. 「eフィーバー機動戦士ガンダムユニコーン 再来・白き一角獣と黒き獅子」 ©創通・サンライズ 「ぱちんこ シン・エヴァンゲリオン Type レイ」 ©カラー ©Bisty ©Fields 「パチスロ 革命機ヴァルヴレイヴ」 ©SUNRISE/VVV Committee 「新世紀エヴァンゲリオン ~未来への咆哮~」 ©カラー ©カラー / Project Eva. ©Bisty ©Fields

中期経営計画(SANKYO VISION 25-27 –持続的成長への号砲–)の進捗

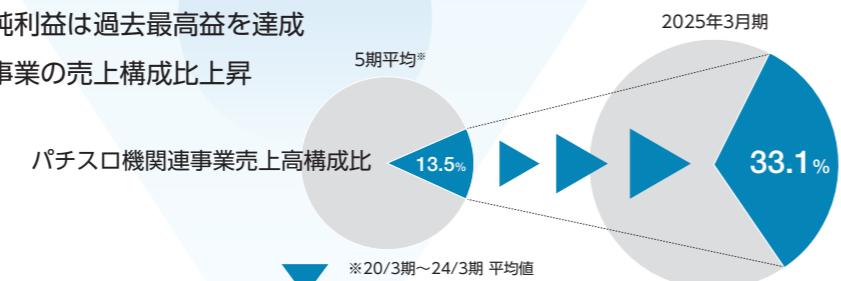
1年目の成果

当社グループは、2024年5月に中期経営計画を策定し、初年度となる2025年3月期は、パチンコ・パチスロともにトップシェアを獲得するとともに、営業利益および当期純利益は過去最高益を達成するなど、順調なスタートを切りました。



パチンコ・パチスロ年間トップシェアの同時獲得

- 営業利益・当期純利益は過去最高益を達成
- パチスロ機関連事業の売上構成比上昇



パチスロ機関連事業の伸長が、当社の成長や経営の安定性に貢献

2026年3月期の見通し

2026年3月期につきましては、パーラーの初期導入台数の抑制傾向の強まりや、パチスロ市場における購買需要の落ち着きを踏まえ、市場見通しを下方修正いたしました。これに伴い、当社の業績計画も足元の市場環境を反映して見直しておりますが、2027年3月期の計画については、据え置いております。

	(実績)	(中計数値目標及び修正計画)			
(百万円)	2025年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (中計数値目標)	2026年3月期 (修正計画)	2027年3月期
売上高	191,821	180,000	200,000	185,000	220,000
パチンコ機関連事業	107,725	117,800	132,400	114,200	144,700
パチスロ機関連事業	63,462	51,600	57,000	60,100	64,700
営業利益	73,605	61,000	73,000	63,000	88,000
営業利益率 (%)	38.4	33.9	36.5	34.1	40.0
パチンコ機関連事業	43,815	40,500	48,400	40,300	57,600
パチスロ機関連事業	35,686	26,300	30,300	29,200	36,200
親会社株主に帰属する当期純利益	53,992	42,000	51,000	44,000	61,000
EPS (円)	245.93	191.48	232.51	216.33	278.10
1株当たり配当金 (円)	100	80	90	90	110
ROE (%)	20.2	15%以上			
パチンコ販売台数 (台)	224,497	247,700	280,000	230,500	320,000
想定市場シェア (%)	26.4	31.0	31.1	27.1	32.0
パチスロ販売台数 (台)	131,368	119,500	130,000	132,000	150,000
想定市場シェア (%)	19.3	13.6	14.4	18.9	15.8



事業戦略：パチンコ事業

中核事業として安定した収益を確保

重点施策

多種多様な商品展開

- 多様化するファンの嗜好に対応
- 販売タイトル数の充実

スペック・ゲーム性に拘り 独創的な商品開発

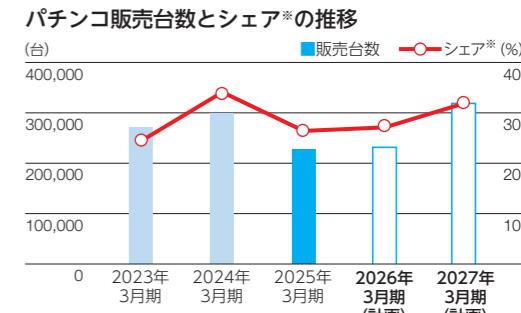
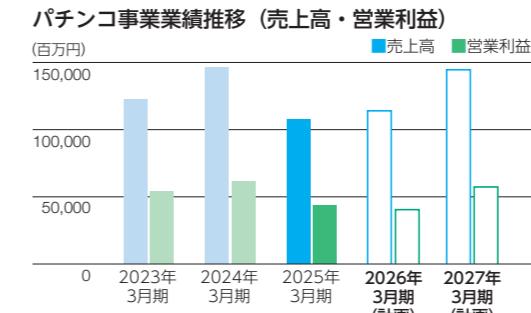
- 新規性や技術革新に富んだ商品開発を推進
- スマートパチンコの開発を推進

新規タイアップ機の積極展開

- 「機動戦士ガンダム」シリーズ、「新世紀エヴァンゲリオン」シリーズに次ぐ、人気シリーズ機の創出

3期連続トップシェアを獲得

2025年3月期は、2位以下を大きく引き離すトップシェアとなりました。2026年3月期も、前期並みのシェアを見込んでおりますが、稼働実績を積み上げることで、ブランド力のさらなる向上を果たし、最終年度の目標であるシェア30%以上を目指してまいります。



*出所：矢野経済研究所、2025年3月期以降は当社推計

市場環境

2025年3月期のパチンコ市場は、パチンコ機の稼働がやや低調に推移するものの、2024年8月に登場した新たなゲーム性である「ラッキートリガー2.0」搭載機種により、スマパチの普及に進展が見られました。2026年3月期は、7月より「ラッキートリガー3.0プラス」搭載機種の登場が始まっており、市場活性化が期待されております。

当社の取り組み

2025年3月期は、ユーザーニーズに応える新たな仕組み「超デカSTART」を搭載した「eフィーバー機動戦士ガンダムユニコーン 再来-白き一角獣と黒き獅子」が、プレイヤーから高い支持を獲得しました。また、スマパチを対象とした新たなゲーム性である「ラッキートリガー2.0」登場を商機捉え、スマパチを中心とした販売により攻勢をかけました。特に「eフィーバーからくりサーカス2 魔王ver.」は、好調な稼働を記録しました。

2026年3月期は、7月に「ラッキートリガー3.0プラス」を搭載する「eフィーバー炎炎ノ消防隊2」を業界最速で投入し、好評を得るなど、ゲーム性の拡充をいち早く取り込み、積極的に展開しております。



eフィーバー機動戦士ガンダムユニコーン
再来-白き一角獣と黒き獅子-
©創通・サンライズ



eフィーバーからくりサーカス2 魔王ver.
原作：藤田和日郎「からくりサーカス」(小学館少年
サンデーコミックス刊) / ©藤田和日郎・小学館/
ソインエンジン Licensed by Sony Music Labels Inc.



eフィーバー炎炎ノ消防隊2 紅丸ver.
©大久保篤／講談社 ©大久保篤・講談社／
特殊消防隊動画広報課



事業戦略：パチスロ事業

成長事業として経営リソースを注ぐ

重点施策

開発体制の拡充

- 販売タイトル数の充実
- アライアンスの強化

スペック・ゲーム性に拘り 独創的な商品開発

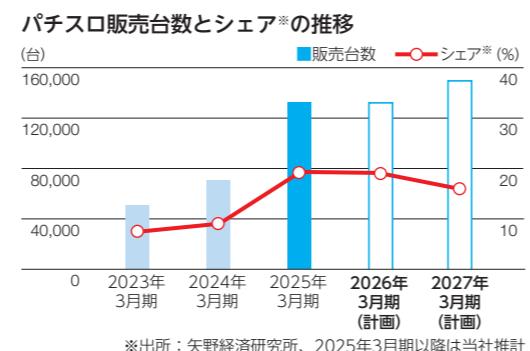
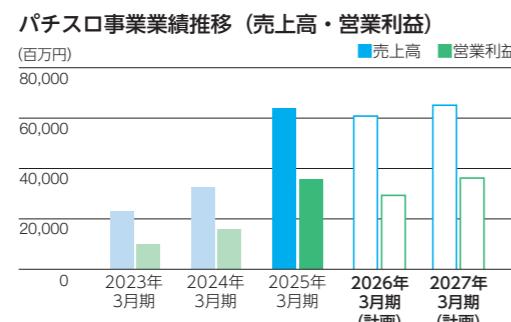
- 新規性や技術革新に富んだ商品開発を推進
- スマートパチスロの開発を推進

新規タイアップ機の積極展開

- 当社パチンコ機の人気タイトルを活用するとともに、新規タイアップ機も積極展開

初のトップシェアを獲得

2025年3月期は、販売台数シェア約19%と大幅に伸長し、当社グループとして初めてトップシェアを獲得するとともに、中計最終年度の目標15%を超える結果となりました。スマスロ登場以降、継続的なヒット機種の創出により築かれたブランド力の維持・向上を図り、トップグループメーカーとしての地位を強固にできるよう取り組んでまいります。



市場環境

2025年3月期のパチスロ市場は、スマスロ人気により稼働が堅調に推移しているものの、スマスロ普及率の高まりによるパーラーの購買需要に一服感が見られ、総販売台数は前年度を下回る結果となりました。2026年3月期は、6月より新たにゲーム性であるボーナストリガー搭載機種が登場しており、市場活性化が期待されております。

当社の取り組み

2025年3月期は、ブランド力向上の勢いを継続し、新規タイトルでは、「レパチスロ 炎炎ノ消防隊」や「レパチスロ かぐや様は告らせたい」が増産を伴うヒットとなりました。加えて、2025年3月期以前に販売した長期稼働中の3タイトルの増産対応も行いました。2026年3月期は、7月にボーナストリガー搭載機種「L Bパチスロ エヴァンゲリヲン～約束の扉～」を投入し、好評を得るなど、新たなゲーム性の拡充をいち早く取り込み、積極的に展開しております。



レパチスロ 炎炎ノ消防隊
©大久保篤／講談社 ©大久保篤・講談社／特殊消防隊動画広報課



レパチスロ かぐや様は告らせたい
©赤坂アカ／集英社・かぐや様は告らせたい製作委員会



L B パチスロ エヴァンゲリヲン
～約束の扉～
©カラー ©Bisty ©Fields



財務戦略

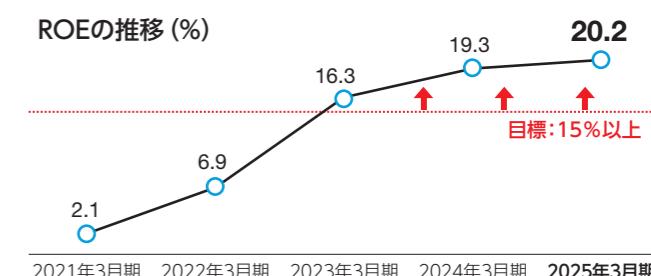
ROE

中計目標

15%以上

2025年3月期実績

20.2%



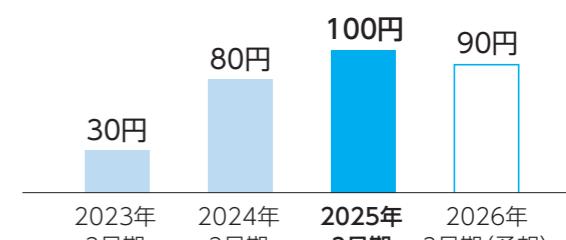
株主還元方針

連結配当性向40%を目安とした業績連動型配当を基本としつつ、機動的な自己株式取得による追加株主還元も視野に適切なバランスシートマネジメントを実施してまいります。

配当

連結配当性向40%を目安とした業績連動型配当であり、2025年3月期は過去最高益を達成したこともあり、年間配当金は100円と前期比20円の増配となりました。2026年3月期は前期比減収減益を見込んでおり、年間予想配当金予想を90円としております。

1株当たり配当金の推移



自己株式取得

資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主への一層の利益還元を目的として、2025年5月12日に以下のとおり自己株式取得を発表いたしました。なお、本自己株式取得によって取得する全株式は消却を予定しております。

自己株式取得・消却の実績

取得期間	取得株数(株)	実施日	消却株数(株)
2008年6月16日～2008年6月24日	1,000,000		
2010年6月14日～2011年6月13日	2,830,700		
2015年2月5日	6,000,000		
2015年2月6日	2,000,000	2015年3月27日	8,000,000
2015年7月8日～2015年10月8日	4,453,000		
2019年8月7日～2019年9月4日	20,006,500	2019年12月30日	20,000,000
2021年11月9日～2022年4月28日	3,258,400	2022年5月31日	3,258,400
2023年9月22日	4,222,400	2023年11月30日	4,222,400
		2024年2月20日	10,116,700
2023年11月8日～2024年3月22日	50,000,000 ^{※1}		
2025年5月13日～2026年3月31日	上限 30,000,000 ^{※2}		

※1 2024年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、株式分割考慮後の数値を記載しています。
※2 2025年9月現在実施中

特集

新プロジェクト

釘と玉によるパチンコの“本来の面白さ”を、すべての人へ
—新プロジェクト「KUGITAMA」始動—

KUGiTAMA

プロジェクト始動の背景と想い

パチンコはこれまで、日本独自の大衆娯楽文化として幅広い層に親しまれてきました。しかし近年、「複雑でわかりにくい」「お金がかかる」という固定化されたイメージが浸透し、遊技人口は年々減少傾向にあります。かつての「気軽に楽しめる娯楽」としての姿は、いま大きく揺らいでおります。このような現状を真摯に受け止めたうえで、遊びを愛するすべての人々とともに、パチンコの文化とDNAを次世代へ継承していくことを目指し、釘と玉によるパチンコ本来の面白さをあらためて社会へ伝えていく新プロジェクト「KUGITAMA(クギタマ)」を始動します。

コンセプトムービー



特設サイト



デジタル施策

<2025年10月より順次>

スマートフォンやパソコンのブラウザ上で、懐かしの名機を中心としたパチンコを無料で体験いただけるサービスをご提供いたします。また、遊技機業界や当社の歩みをご紹介するオンラインミュージアムの開設も予定しております。



リアル施策

<2026年夏頃予定>

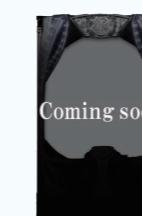
「釘と玉」の面白さを体験できる羽根モノ機を中心とした遊技スペースと、パチンコ初心者の方でも気軽に立ち寄りいただけるカフェスペースを融合させた、体験型店舗の展開を予定しております。



プロダクト施策

<2026年秋頃予定>

遊技機メーカーとして、パチンコの原点である「釘と玉」の面白さに改めて着目し、羽根モノ機の新機種を現在開発しております。パチンコホール様に導入いただきやすいよう、低価格での展開を予定しております。



新会社設立

「KUGITAMA」プロジェクト推進と業界課題解決を担う新体制

「KUGITAMA」プロジェクト推進及び業界課題、新規事業開発などに柔軟かつ迅速に対応するため新会社を設立いたしました。

SANKYO IZM

会社名	サンキヨウ イズム SANKYO IZM株式会社
設立	2025年8月8日
所在地	東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
代表者	代表取締役社長 高橋 博史
事業内容	遊技機文化の研究・啓発及び普及に関する事業

新企業CM

「オアシス」篇制作・公開

新企業CM「オアシス」篇

当社は企業CM「変化の風」篇制作から3年ぶりとなる新企業CMを制作いたしました。新企業CM「オアシス」篇は当社初の試みとして、生成AIを活用して制作いたしました。

本CMは、当社コーポレートサイト「CMギャラリー」にてご覧いただけます。

WEB <https://www.sankyo-fever.co.jp/corporate/company/cm.html>



新企業CMに込められた想い

新企業CM「オアシス」篇は、「いつも誰かのオアシスに」をコンセプトに掲げ、「人々にうるおいのある笑顔を届けたい」という当社の想いを込めた映像となっております。乾いた砂漠の風景がやがて瑞々しいオアシスへと変化していく物語を通じて、エンターテインメントが心の渴きを癒す存在でありたいという願いを表現しております。

当社の提供するエンターテインメントが、「いつも誰かのオアシスに」なれるよう、今後も『創意工夫』の精神とともに挑戦し続けてまいります。



サステナビリティの取り組み

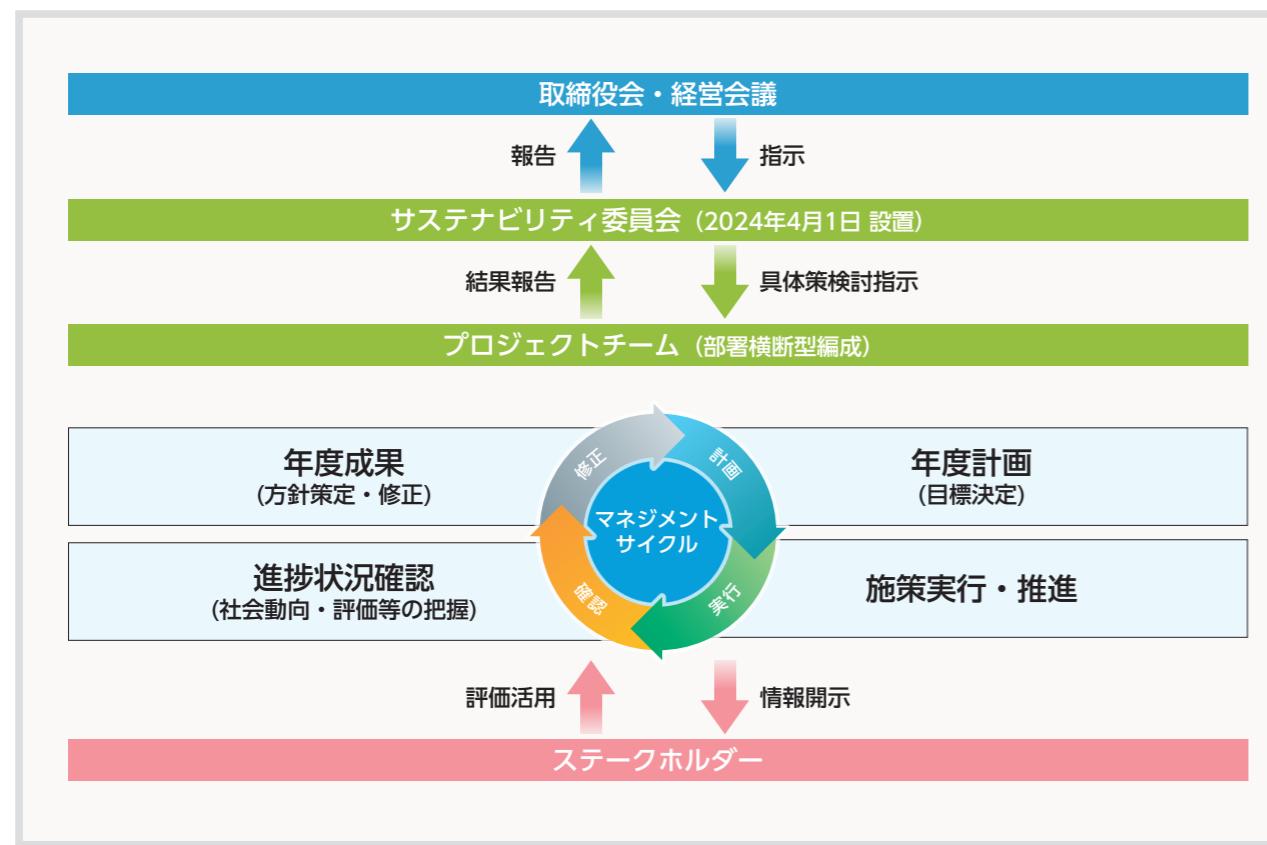


サステナビリティに関する基本的な考え方

当社グループは、パチンコ・パチスロ業界のリーディングカンパニーとして、健全なレジャーの発展と心豊かな社会づくりに貢献するため、顧客、取引先、株主、従業員、地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーへの配慮及び協業を通じて、ESGの観点から「持続可能な社会」と「企業の持続的な成長」を同時に実現し、企業価値の向上を目指して、サステナビリティに関する取り組みを推進してまいります。

サステナビリティ推進体制

代表取締役社長が委員長を務め、各本部の本部長が構成委員である「サステナビリティ委員会」が当社グループ全体のサステナビリティ方針や目標設定を行うとともに、各課題に対応する部署横断型のプロジェクトチームを編成し、計画、実行、確認、修正のマネジメントサイクルを推進しております。重要事項についてはサステナビリティ委員会から取締役会及び経営会議に報告を行い、取締役会及び経営会議において対応方針及び実行計画等について審議・監督・指示を行っております。



サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

当社グループは、業界をリードする遊技機メーカー及びその関係会社として、「創意工夫による革新的な商品の創出」を使命としており、ESG観点の経営基盤のうえに成り立っております。特定した5つのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）に取り組むことで、より強固な経営基盤による革新的な商品の創出を実現し、経済的価値と社会的価値を同時に創出することで企業価値の最大化を図ってまいります。

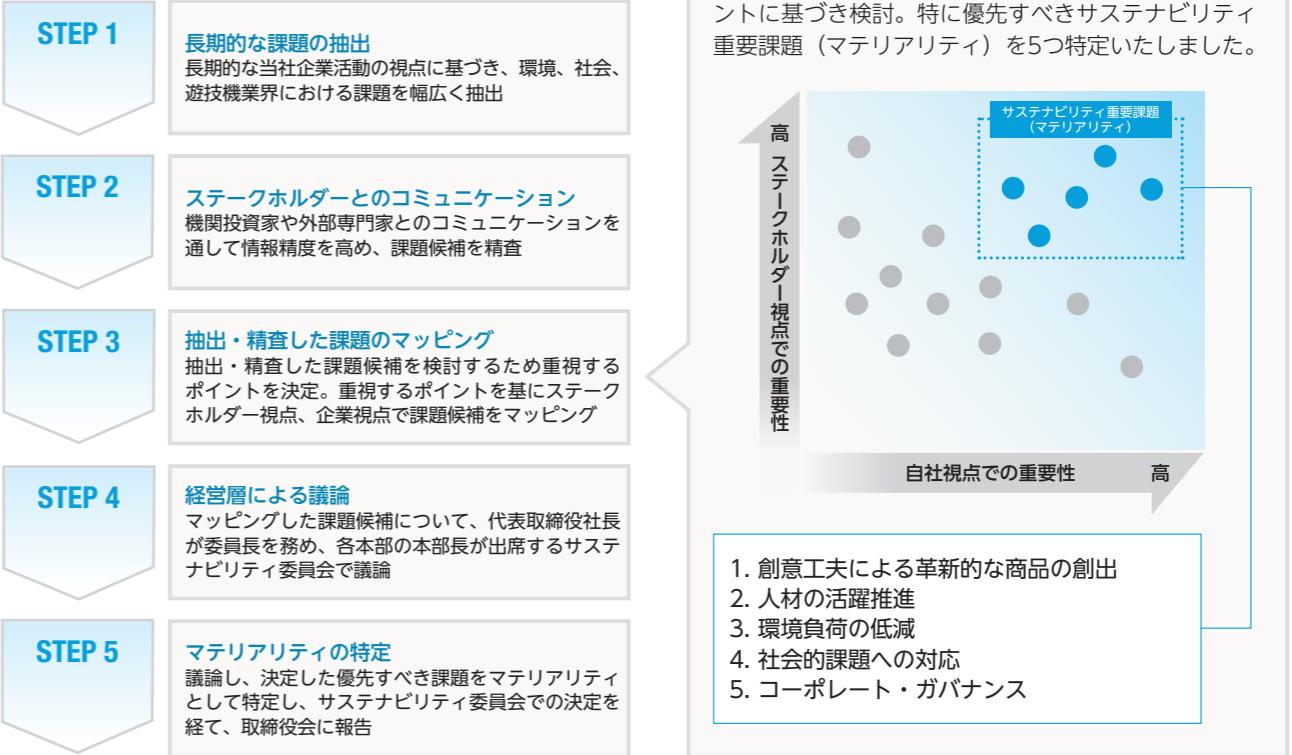
- | | |
|---------------------------|--|
| 1 創意工夫による革新的な商品の創出 | ▶ ●付加価値の高い商品の創出 ●イノベーションを可能にする組織・制度
●製品の安全・安心に対する責任 |
| 2 人材の活躍推進 | ▶ ●多様性・人権の尊重 ●人材開発への投資 ●働きがいのある職場づくり |
| 3 環境負荷の低減 | ▶ ●気候変動に向けた取り組み ●資源の有効活用 |
| 4 社会的課題への対応 | ▶ ●エンドユーザーにおける依存症を防ぐための取り組み |
| 5 コーポレート・ガバナンス | ▶ ●社会要請に適応したコーポレート・ガバナンスの推進 |

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティ特定において重視したポイント

1. 社是・経営理念
2. 長期的な視点における企業課題の抽出
3. 環境・社会課題における当社グループへの意見・要望

経営層を含む社内での議論や、機関投資家、個人投資家など当社の株主、顧客、地域住民など様々なステークホルダーからの意見・要望を踏まえ、自社視点での重要性、ステークホルダー視点での重要性を評価軸として、課題候補をマッピングし、重要視するポイントに基づき検討。特に優先すべきサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）を5つ特定いたしました。



サステナビリティの取り組み

マテリアリティの取り組み状況

マテリアリティ	概要	2025年3月期の具体的な取り組みと実績
1 創意工夫による革新的な商品の創出	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値の高い商品の創出 イノベーションを可能にする組織・制度 製品の安全・安心に対する責任 	<ul style="list-style-type: none"> パチンコ・パチスロ両市場における年間トップシェア獲得 商品価値向上を目的とした従業員アイデア提案制度の実施 遊技機の不正防止と品質管理強化に向けたトレーサビリティの徹底 遊技機製造時の処理に係る安全性の確保（原材料への配慮）など
2 人材の活躍推進	<ul style="list-style-type: none"> 多様性・人権の尊重 人材開発への投資 働きがいのある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の積極採用実施（女性採用比率目標15%以上 / 実績25%） 大卒初任給を30万円以上に引き上げ 新卒入社社員・中途入社社員・新任管理職を対象とした各研修の実施 男性従業員を含む対象社員への育児休業取得推奨 障がい者雇用施策の推進 など
3 環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に向けた取り組み 資源の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> （株）三共エクセル工場屋根上における太陽光発電設備の運用 遊技機リサイクル率90%超の継続 省エネ設備の積極的な導入（照明設備のLED化、営業車両におけるハイブリッド車等） 製品付属品の梱包・緩衝材の変更（発泡スチロールから再利用しやすい段ボールへ） 製品の環境負荷低減策実施（基板の鉛フリー化等） 地域清掃活動への参加 TCFD提言に基づく情報開示の実施 など
4 社会的課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> エンドユーザーにおける依存症を防ぐための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 宣伝物等への啓発メッセージ挿入の取り組み パチンコ・パチスロ依存問題啓発週間の取り組み リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）の相談体制の強化及び機能拡充のための支援 依存問題の予防と解決に取り組む民間団体等に対する経済的支援の実施 など <p>※遊技業界全体（パチンコ・パチスロ産業21世紀会）の取り組みとして、当社が加盟している「日本遊技機工業組合」を通じて支援している内容を含む</p>
5 コーポレート・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 社会要請に適応したコーポレート・ガバナンスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 監査等委員会設置会社への移行（2024年6月移行） 指名・報酬委員会の開催・運用（2024年1月設置） サステナビリティ委員会の開催・運用（2024年4月設置） など

外部機関からのESG評価

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初選定（2025年6月）

今回選定されたESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」は、グローバルインデックスプロバイダーである英FTSE Russell社により構築され、各業種内において相対的に環境・社会・ガバナンス（ESG）への取り組みに優れた日本企業が組み入れられております。また、温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコアにより評価された改善企業のみを組み入れることで、低炭素経済への移行も支援しております。



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに株式会社SANKYOが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のランドマークや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



環境 Environment

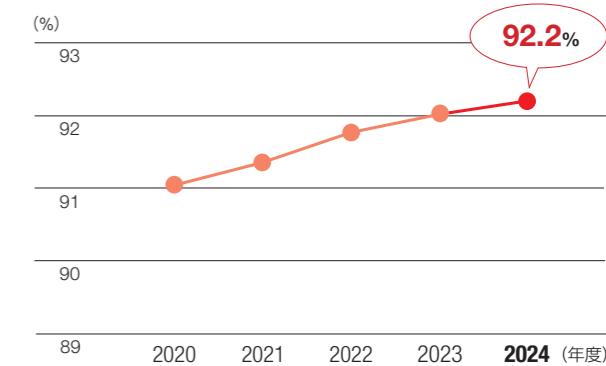
SANKYOグループでは、企業活動の一環として、環境負荷の低減に取り組むことで、より良い地球環境の実現に継続的に貢献してまいります。ここではその取り組みについてご紹介いたします。

資源の有効活用

遊技機リサイクル・リユースの取り組み

当社グループでは、資源の有効活用や環境負荷低減を図るために、遊技機リサイクルの取り組みに注力しており、90%を超える高いリサイクル率を実現しております。遊技機設計段階から、リサイクルしやすい仕様となるよう、再生利用可能な部材の利用や、部材ロス低減につながる共通部品比率の拡大に努めております。また、低価格で新台と同様の効果が期待できるリユース機種を積極的に活用しております。このような施策は、リサイクルの実現はもとより原価低減によるコストメリットも享受しております。当社グループといたしましては、取り組みの更なる深化を図り、環境負荷低減と経営の効率化を実現してまいります。

リサイクル率



遊技機業界編

つくる責任・つかう責任に尽くしています！

業界全体でのリサイクルの連携

1997年に業界全体でリサイクルを推進するため、遊技機リサイクル検討委員会（現・遊技機リサイクル推進委員会）を立ち上げました。

回収システムの構築

遊技機リサイクル推進委員会による廃棄（有償売却）の推奨経路を指定しております。また「広域回収」「下取り回収」「買取回収」の3つの方法で回収システムを構築しております。

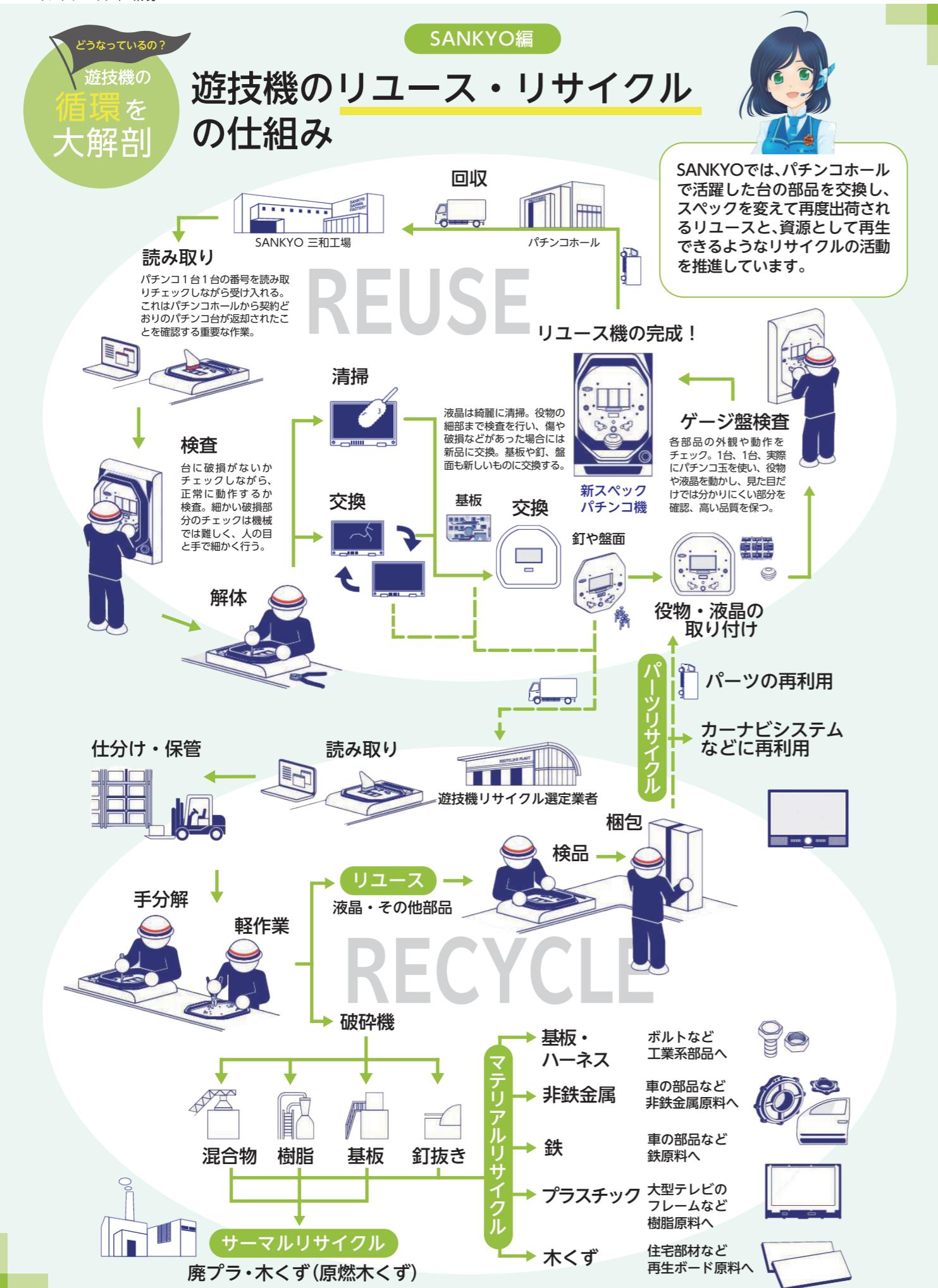
製造者コスト負担

日工組遊技機回収システムを利用した使用済み遊技機の排出について、処理費用は当該メーカーが負担しております。

廃棄物処理業者の選定

リサイクルを適正に行うことができる処理業者を「遊技機リサイクル選定業者」として選定。許可業者以外の業者に有償売却する場合の確認事項を、遊技機リサイクル推進委員会により指示しております。





ご参考

リサイクル法制度のあゆみ

遊技機リサイクルに関するパチンコ・パチスロ業界の取り組み

パチンコ・パチスロ業界では、環境負荷を軽減するために様々なリサイクルの施策に取り組んでいます。2000年5月の「循環型社会形成推進基本法」制定に伴い、2001年4月に「資源有効利用促進法(改正リサイクル法)」が施行され、遊技機もその対象製品(省資源化製品・再利用促進製品)に指定されました。これを受けて、各メーカーは遊技機の設計・製造段階において、3R(リデュース・リユース・リサイクル)への対策を講じ、パチンコメーカーの組合である日本遊技機工業組合が中心となり、使用済み遊技機の回収及び処理を行う遊技機回収システムを構築しております。

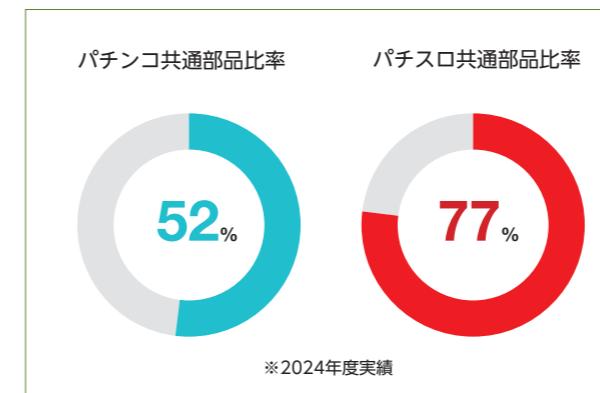


REDUCE REUSE RECYCLE

その他環境に関する取り組み

◆部品の共通化

当社グループでは、機種間やブランド間において、遊技機の部品の共通化を推進することで、部材ロスの低減に注力しております。パチンコの共通部品比率は約52%、パチスロの共通部品比率は約77%となっております。引き続き部材ロスの低減を図ってまいります。



◆再生可能エネルギーの活用

当社グループでは、再生可能エネルギー活用の取り組みとして、当社連結子会社である(株)三共エクセルの工場屋根上にPPAモデルによる太陽光発電設備を設置し、そこで発電された電気を消費することで、CO₂排出量削減を図っております。

2024年度はこの太陽光パネルによる再生可能エネルギーの活用によって、284t-CO₂のCO₂排出量削減を行いました。また、当社三和工場の屋根上にもPPAモデルによる太陽光発電設備の設置を計画しております。



(株)三共エクセル 工場屋根上 太陽光発電設備

◆製品の付属品出荷時の梱包・緩衝材の変更

遊技機付属品の梱包・緩衝材を発泡スチロールから段ボールへ変更したことにより、顧客先での廃棄物削減に貢献しております。この取り組みは、環境負荷の低減のみならず、廃棄時にかかる費用や手間の削減にも寄与するものであり、環境配慮と費用削減、顧客利便性を実現しております。

◆営業車両でのハイブリッド車の導入

当社の営業本部にて使用する営業車両は、CO₂排出量削減の一環として、環境負荷の少ないハイブリッド車への積極的な入れ替えを進めており、既に大半の車両はハイブリッド車への移行を完了しております。

当社グループでは、他にも「事業所内照明のLED化」や「省エネ性能の高い空調設備への入れ替え」、「人感センサー付照明の導入」など、エネルギー消費量及びCO₂排出量削減のための設備投資の実施や「業務の電子化(ペーパーレス化)」などを実施することで資源の有効活用に関する取り組みを行っております。また、製品への環境負荷物質の利用低減の取り組みとして「基板の鉛フリー化」を促進するとともに、メッキ品の削減を図り、再生利用可能な素材の使用を推進しております。

気候変動に向けた取り組み(TCFD提言への対応)

世界的な課題となっている気候変動リスクへの対応は、当社グループとしても重要な課題の一つと認識しており、TCFD^{*}が提言するフレームワークを活用した情報開示をいたしました。今後も気候変動関連情報の開示を進めることで、当社グループとしても脱炭素化の推進を図り、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

*気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)



TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES

ガバナンス

気候変動への対応については、サステナビリティ委員会のもと、各課題に対応するプロジェクトチームを編成し、グループ全体のサステナビリティ方針や目標設定・具体的な施策を進めております。

取締役会及び経営会議は、サステナビリティ委員会から重要事項について報告を受け、気候関連課題への対応方針及び実行計画等についても審議・監督・指示を行っております。



リスク管理

当社グループでは、気候変動に関するリスクを重要リスクの一つと位置付けており、経営方針・経営戦略等に影響を与えるリスク全般についてはシナリオに基づく分析を行い、気候変動リスク・機会の特定を定期的に行っております。

特定したリスク・機会はサステナビリティ委員会、環境

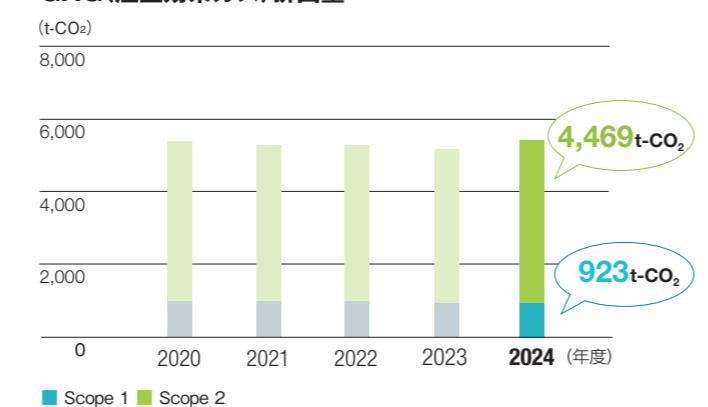
対策プロジェクトチームを中心に議論し、重要度の高いものについては、取締役会及び経営会議へ報告いたします。

取締役会・経営会議において当社グループのリスク及び機会を統括し、具体的な対応やリスク管理体制についての方針を決定し、リスクを最小化するための対策構築の指示、進捗管理を行っております。

指標と目標

当社グループは、温室効果ガス排出量(Scope1 及びScope2)の削減に向け、拠点ごとの温室効果ガス排出量抑制に向けた取り組みを進めております。今後は、温室効果ガスの排出量の削減目標設定についても検討を進めるとともに、設備の入れ替え等による省エネルギー施策の推進や太陽光発電の活用などによる再生可能エネルギー導入拡大の検討を進めてまいります。

GHG(温室効果ガス)排出量



戦略



シナリオ分析の概要

当社グループでは、TCFD 提言にて例示されている気候変動がもたらすリスク・機会を基に、シナリオ分析を実施いたしました。シナリオ分析においては、2°C以下シナリオを含む複数の温度帯のシナリオを選択・設定していく必要があるため、移行面で影響が顕在化する1.5°Cシナリオと物理面での影響が顕在化する4°Cシナリオの2つのシナリオを選択いたしました。

1.5°Cシナリオ

1.5°Cシナリオでは、炭素税の導入や化石燃料の使用に関する規制導入など、脱炭素社会への移行に伴う影響が予想されます。

当社グループの事業へのリスクとしては、炭素価格（炭素税・排出量取引制度）の導入や再エネ政策による電力価格高騰に伴う操業コストの増加及び原材料価格の高騰による製造コストの増加などが想定されます。

機会としては、使用済み機器のリサイクルや部品リユースを促進することで、環境対応への取り組み推進に対し、外部評価の向上による機会獲得が挙げられます。

4°Cシナリオ

4°Cシナリオでは、異常気象の激甚化などの気候変動による物理的な影響が発生することが予想されます。

当社グループの事業へのリスクとしては、異常気象の激甚化に伴う製造拠点・オフィスの被災や休業による売上の減少、平均気温の上昇に伴う光熱費の増加や従業員の健康被害、感染症の増加や気象パターンの変化により外出機会が減少し、パチンコ・パチスロ店への来店客が減少することなどが予想されます。



想定される気候変動リスク・機会

	項目	想定されるシナリオ	リスク	機会	発生時期
気候変動 1.5°Cシナリオ	政策・法規制	GHG排出に関する環境規制強化 炭素税や排出量取引制度の導入 再エネ・省エネ政策	炭素価格（炭素税や排出量取引制度）の導入により、GHG排出量に応じた課税やクレジット購入義務などが発生し、コストが増加 再エネ政策の拡充により、再エネ需要が高まり、電力価格が上昇	△	中・長期
	市場	環境配慮型製品に関する規制 原材料コストの増加	既存製品に関して、省エネ規制を受けることによる機会損失 使用済み機器リサイクルや、部品リユースの促進による外部評価の向上 遊技機製造に必要な原材料の価格が高騰し、製造コストが増加	△	△ 長期
	評判	投資家の評判変化	環境への配慮が十分であると投資家から判断されることにより、自社の評価が向上し、株価の上昇や資金調達の機会を獲得	○	△ 長期

	項目	想定されるシナリオ	リスク	機会	発生時期
気候変動 4°Cシナリオ	急性	異常気象の激甚化、多発（猛暑、台風、豪雨、高潮等）	異常気象の激甚化に伴う製造拠点、オフィスの被災や休業による売上の減少	○	長期
	慢性	平均気温の上昇 感染症の増加	空調費などの光熱費の増加、従業員の健康被害 感染症の増加や気象パターンの変化により、外出機会が減少し、パチンコ・パチスロ店への来店客が減少	△	長期
		降水・気象パターンの変化		△	長期

※○=影響あり △=影響は軽微

短期：3年以内 中期：3年～10年 長期：10年以上を想定



社会 Social

SANKYOグループでは、人材の活躍推進を重要な経営基盤と捉え、

多様性・人権の尊重、人材開発への投資、働きがいのある職場づくりを通じて、ともに働く人々が個性を活かし、
活躍できる環境整備に努めてまいります。また、社会とのより良い共生を目指し、
依存症問題を含む社会的課題への対応を企業活動の一環として責任を持って取り組んでまいります。
ここではその取り組みについてご紹介いたします。

人材の活躍推進

多様な人材の活躍支援

当パチンコ・パチスロ業界の遊技人口の性別構成は、男性72.0%に対し女性28.0%となっており、遊技者に占める男性の割合が高くなっています。それに伴い、新卒採用エンブリー者の割合も男性が85%超を占めています。

また、遊技機メーカーとして採用に注力している職種は、開発と営業であり、開発はパチンコ・パチスロの遊技プレイヤーが主な採用対象となるため、男性の採用割合が高く、



具体的な取り組み

女性の意欲的採用	採用担当者に女性従業員を配置し、採用選考過程において女性応募者と女性従業員が直接対話できる場を設ける。
働き方改革の継続実施	対象者へ育児休業の取得推奨を行うとともに、男性従業員についても1週間以上の育児休業取得を推奨する。
障がい者雇用の増進	障がいのある方の就労能力を正しく評価し、相談窓口の設置、対話の機会を設ける等の施策を推進し、障がいのある従業員の職場定着を支援する。

当社の目標と実績

項目	目標	2024年度実績
女性採用比率	15%以上	25.0%
女性労働者の平均勤続年数	17年以上	16.5年
女性管理職比率	10%以上	4.3%
育児休業取得率	男性労働者の育児休業取得率 50%以上	女性 100.0% 男性 7.1%
障がい者雇用率	2.5%以上	2.3%

優秀な人材の育成

当パチンコ・パチスロ市場における遊技機は、年々機構、ゲーム性等が多様化してきており、市場ニーズを先取りして、ファン・パーソナルの皆さまに満足していただくだけでなく、パチンコ・パチスロ産業が未永く大衆娯楽として支持されるために、潜在ファン・休眠ファンにも関心を持っていただけのアミューズメント性の高い遊技機の開発が喫緊の課題となっております。また、組織の停滞を防ぐため、社内の適正な人材分布やシステム化による業務効

率の向上のほか、従業員の意識改革に取り組む必要があると考えております。

当社グループは、厳しい環境を勝ち抜き、持続的成長を果たすため、積極的な人材戦略が最重要と捉えており、高度な専門性や論理的思考力・コミュニケーション能力を有する優秀な人材の確保と、既存従業員のモチベーション・パフォーマンスの更なる向上を図ることにより、当社グループの人材価値を高め、企業価値の更なる向上に努めてまいります。

当社の人財化戦略に基づく取り組み

優秀な人材の確保	2024年度より大卒初任給30万円以上に引き上げ DX人材の確保のため採用試験(デザイン思考テスト)の変更
若手従業員の早期育成	「3年で一人前」を目的とした入社1年目から3年目までの段階的な教育研修の実施
成長機会の拡大	チャレンジしやすい企業文化のもと、実績を残した若手従業員の早期役職登用を推進

新卒入社社員・新任管理職を対象とした研修制度（一部）

研修プログラム名	実施目的	1人当たりの研修時間	参加者（人）
			2024年度
新入社員研修	参加者が社会の仕組みや企業理念を理解し、基本的なビジネスマナーや報連相(報告・連絡・相談)のスキルを身につけることを目的としております。また、PDCAサイクルを活用して仕事を改善する方法を学び、効率的に業務を進められる力を養います。これにより、社会人としての基礎をしっかりと固め、職場でのパフォーマンスと、生産性の向上に貢献できることを目指します。	30時間	19
フォローアップ研修	参加者が職場でのパフォーマンスを向上させるために必要なスキルを習得し、自己成長を促進することを目的としております。具体的には、PDCAサイクルの効果的な活用法を学び、業務の振り返りと改善を行うスキルを身につけることを目指します。また、モチベーション管理の手法を学ぶことで、自分自身やチームのモチベーションを維持し、高める能力を養います。さらに、円滑なコミュニケーションスキルを習得し、職場での人間関係をより良いものにするための具体的な技術を身につけることを目指します。	8時間	19
ネクストスキル研修	参加者が仕事に対する目的意識を明確にし、効率的かつ効果的な仕事術を習得することを目的としております。具体的には、目的意識を持って業務に取り組むための方法、スケジュール管理の技術、及びアサーション・DESC法を用いたコミュニケーションスキルの向上を目指します。これにより、個々のパフォーマンスを最大化し、職場全体の生産性を向上させることを目指します。	8時間	23
新任管理職研修	参加者が管理職として求められる役割や行動基準・コンプライアンス意識の向上、情報セキュリティ対策、サステナビリティ、ダイバーシティ&インクルージョン、リスクマネジメント、組織運営について体系的に理解し、実践力を高めることを目的としております。具体的には、管理職としての責務や人事考課、適切な言動、ネットワーク犯罪に対応するリスク低減策、多様性やSDGs、ハラスマント防止、リスクの捉え方、効果的な業務分担やコミュニケーションなど、管理職としての心構えとスキルの習得を目指します。	12時間	17

健康経営

当社グループは、健康管理も仕事の一環であると考え、従業員が働きやすい職場環境の整備と、心身の健康促進の充実を図り、「有給休暇取得の推進」、「全従業員の残業時間の削減」、「全従業員を対象にしたストレスチェックの実施」などに取り組むとともに、法令の遵守を徹底することで、適正な労働時間の管理及び過重労働の削減・防止に努め、健康の保持・増進活動に継続的に取り組むことを基本的な方針として

おります。また、人事制度につきましても社員の就労意欲増進のための制度改正に向けて取り組み、より従業員が誇りを持って働く職場環境を目指してまいります。

当社の健康経営に向けた取り組み

項目	2024年度実績
1人当たり平均残業時間	16.2 h/月
有給休暇取得率	53.0%

人権の尊重に関する方針

当社は、社是である『創意工夫』の精神に基づき、エンターテインメント性に富んだ遊技機及び関連サービスを提供する企業として、社会的責任を果たすべく高い倫理基準の遵守に努めております。当社の行動規範は、「国際人権章典」^{*1}「ビジネスと人権に関する指導原則」^{*2}などの国際的な人権基準・規範を支持・尊重するとともに、企業行動に関する各種ガイドラインに基づき、すべての従業員が誠実かつ適切に行動するための指針となっております。

◆基本方針

当社は、適用される法令及び「国際人権章典」^{*1}「ビジネスと人権に関する指導原則」^{*2}を遵守し、すべての従業員、取引先、顧客及び地域社会の人権を尊重し、ハラスメント、強制労働、児童労働及び人種、信教、性別、年齢、性的指向や身体的特徴、国籍等に基づく差別を一切容認せず、健全で安全な労働環境を提供します。また、当社が人権に負の影響を及ぼした場合には、これに対処するよう努めてまいります。

◆労働者の権利

当社は、適用される法令を遵守し、従業員の「結社の自由」「団結権」「団体交渉権」及び「団体行動権」を労働者の権利として尊重し、労働者が労働条件や賃金水準等について労使間協議を行う手段として、労働組合の結成及び加入、非加入の自由を保障します。また、関係法令で定められた最低賃金を遵守するとともに、従業員に対して生活に十分な賃金を支給することで、文化的な生活を保障します。

*1 世界人権宣言、2つの国際人権規約(社会権規約・自由権規約)と、市民的、政治的权利に関する国際規約への第一・第二選択議定書を合わせた総称

*2 2011年に国連人権理事会で承認された企業活動における人権尊重の在り方に関する国際文書

社会的課題への対応



業界団体最優先課題としての表明

2017年に遊技産業13団体からなるパチンコ・パチスロ産業21世紀会が、パチンコ・パチスロ依存(のめり込み)問題対策を強化し、最優先課題の表明として、「パチンコ・パチスロ依存(のめり込み)問題に対する声明」を発表しました。当社でも業界の健全な発展に寄与すべく本声明に賛同し、パチンコ・パチスロ依存を防ぐために以下の取り組みや支援を行っております。

◆宣伝物等への啓発メッセージ挿入の取り組み

製造業者団体の自主的な取り組みとして、遊技客に向けて、統一フレーズ「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。」「のめり込みに注意しましょう。」を、遊技機の液晶表示器、CM、ポスター等へ表示を定めており、当社でも広告・宣伝を行う際には統一フレーズを表示しております。

◆パチンコ・パチスロ依存問題啓発週間の取り組み

毎年、5月14日から5月20日はパチンコ・パチスロ依存問題啓発週間とされており、業界団体ではこの啓発週間に、パチンコ・パチスロ依存(のめり込み)問題について理解を広げるための情報発信や啓発週間のお知らせ等を行っております。

◆ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)」への支援

2006年より業界団体の支援によって「リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)」が設立され、啓発活動や電話相談などの幅広い取り組みを展開しております。当社でもRSNの相談体制の強化及び機能拡充のために、加盟する日本遊技機工業組合を通じて、この取り組みを支援しております。

◆依存問題の予防と解決に取り組む民間団体等に対する経済的支援の実施

パチンコ・パチスロ産業21世紀会が「一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構」を通じて、依存問題の予防と解決に取り組む民間団体等への助成を行っております。当社も加盟する日本遊技機工業組合を通じて、この取り組みを支援しております。

地域貢献の取り組み

当社グループでは、事業を通じ地域活性化を後押しするとともに、様々な形で地域貢献の取り組みを行っております。

渋谷区地域清掃に参加

当社は、本社所在地の渋谷区の条例である「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」による「渋谷区一斉清掃の日(4月28日「渋谷の日」)」や「秋の条例啓発キャンペーン」に毎年参加し、清掃活動に取り組んでおります。

第7回全国クリーンデーに参加

当社は、一般社団法人 日本遊技関連事業協会(略称：日遊協)による「第7回全国クリーンデー」に参加し、本社周辺、及び近くを流れる渋谷川沿いで清掃活動を実施いたしました。

「全国クリーンデー」は日遊協による、全国のパチンコホール、パチンコ・パチスロ関連企業が、地域密着型の社会貢献活動として各事業所周辺の清掃活動を実施する取り組みです。

医療法人 明心会 仁大病院へパチンコ機を提供

当社は、一般社団法人 余暇環境整備推進協議会と連携し、医療法人 明心会 仁大病院が行っている認知症患者の機能回復訓練「パチンコ療法」に当社パチンコ機を提供いたしました。

「ふれあいフェスタinおおさき2024」にて「STREEK」の試乗体験会を実施

当社は、「ふれあいフェスタinおおさき2024」の一般社団法人 大崎町SDGs推進協議会ブースにて、当社グループ会社のエンビジョン(株)がデザインを手掛けた電動アシスト三輪カーゴバイク「STREEK」の試乗体験会を行いました。

また、当社のリサイクルの仕組みを紹介したパネルの展示や、大崎町で実施したリサイクル啓発イベント「“あそび”の分解ワークショップ」の際に使用した遊技機パーツの展示も行いました。

災害用トイレトラック導入への寄附で群馬県みどり市を支援

当社連結子会社である(株)三共エクセルは、群馬県みどり市の災害用トイレトラック導入を支援するため、100万円を寄附いたしました。5つの洋式トイレ・給水タンク・汚水タンク・ソーラーパネルを備え、災害時にすぐ使用できる機能が備わっており、電動車いすリフターにより車いすの方でも使用できます。

企業版ふるさと納税を通じた寄附を実施

当社は、2024年度において地域振興推進の一環として、群馬県桐生市、群馬県みどり市、群馬県伊勢崎市、鹿児島県大崎町、石川県へそれぞれ500万円の寄附を実施いたしました。当社は、グループ企業所在地や事業連携等で関わりのある自治体への地域活性化の支援や自然災害により被災した地域への支援を行うことで、地域住民・自治体との関係を強化するとともに協働によるSDGsへの貢献に向けたプロジェクト等も実施し、持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えております。

自治体名	当社との関わり	寄附対象事業	事業詳細
群馬県 桐生市	旧本社所在地	「女性・若者から選ばれる桐生市提言書」に基づく事業	学生年代や教育移住に関心のある子育て世代をターゲットとした取り組みなど
群馬県 みどり市	連結子会社の(株)三共エクセルの所在地	脱炭素事業、エコアクション推進事業	再生可能エネルギー活用の推進や「みどり5つのゼロ宣言」の目標達成に向けたプロジェクトなど
群馬県 伊勢崎市	当社の三和工場所在地	ひとの流れを創出する事業	ISESAKI eスポーツ推進事業」「伊勢崎市誕生20周年記念事業」など
鹿児島県 大崎町	大崎町内の開催イベントにおける当社キャラクターとのタイアップ	大崎町SDGs推進事業	リサイクルを通して循環型の持続可能な社会をつくるOSAKINIプロジェクトの推進(研究・開発、人材育成、情報発信等)
石川県	当社営業所所在地	能登半島地震復旧復興支援	2024年1月に発生した能登半島地震で被災した地域の復旧・復興



ガバナンス Governance

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、健全なレジャーの発展と心豊かな社会づくりに貢献するため、パチンコ・パチスロ業界のリーディングカンパニーとしての使命を果たすことを基本理念としております。

また、当社グループには、株主の皆さまをはじめ、お客さまであるパーラー、ファン、取引先、地域社会、従業員等の各ステークホルダーが存在しております。この各ステー

クホルダーと永続的に良好な関係を保つことが、経営の最重要課題であり、以下の諸点をコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方と認識しております。

- ステークホルダーの利益の最大化と最適な配分
- 法令、社会規範、企業倫理の遵守
- 経営の効率化と透明性の向上
- 全従業員一人一人の意欲の増進と能力開発
- パチンコ・パチスロ業界の社会的信頼の向上

コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、取締役会の監督機能の強化と、権限委譲による意思決定と業務執行の迅速化を図るため、2024年6月より、監査等委員会設置会社に移行いたしました。

また、2008年4月より、コーポレート・ガバナンスの強化及び意思決定の迅速性と的確性の確保を目的に、執行

役員制度を導入しております。取締役会を経営意思決定、業務執行の監督を行う機関として明確化し、執行役員は取締役会から権限委譲を受け、委任された担当分野における業務執行の責任者として位置付けております。

各会議体の構成・活動内容

取締役会

取締役会は、取締役(監査等委員である取締役を除く。)4名、監査等委員である取締役5名(うち社外取締役監査等委員3名)で構成されており、経営上の重要な意思決定や取締役の業務執行に関する監督を行なうための定期取締役会に加え、迅速な意思決定のために必要に応じて臨時取締役会を開催しており、2024年度においては、13回開催しております。

監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役5名(うち社外取締役監査等委員3名)で構成され、監査等委員会規程に基づき、取締役の職務執行の適法性・妥当性の監督及び監査を行うとともに内部監査部門である内部監査室と緊密に連携しております。

経営会議

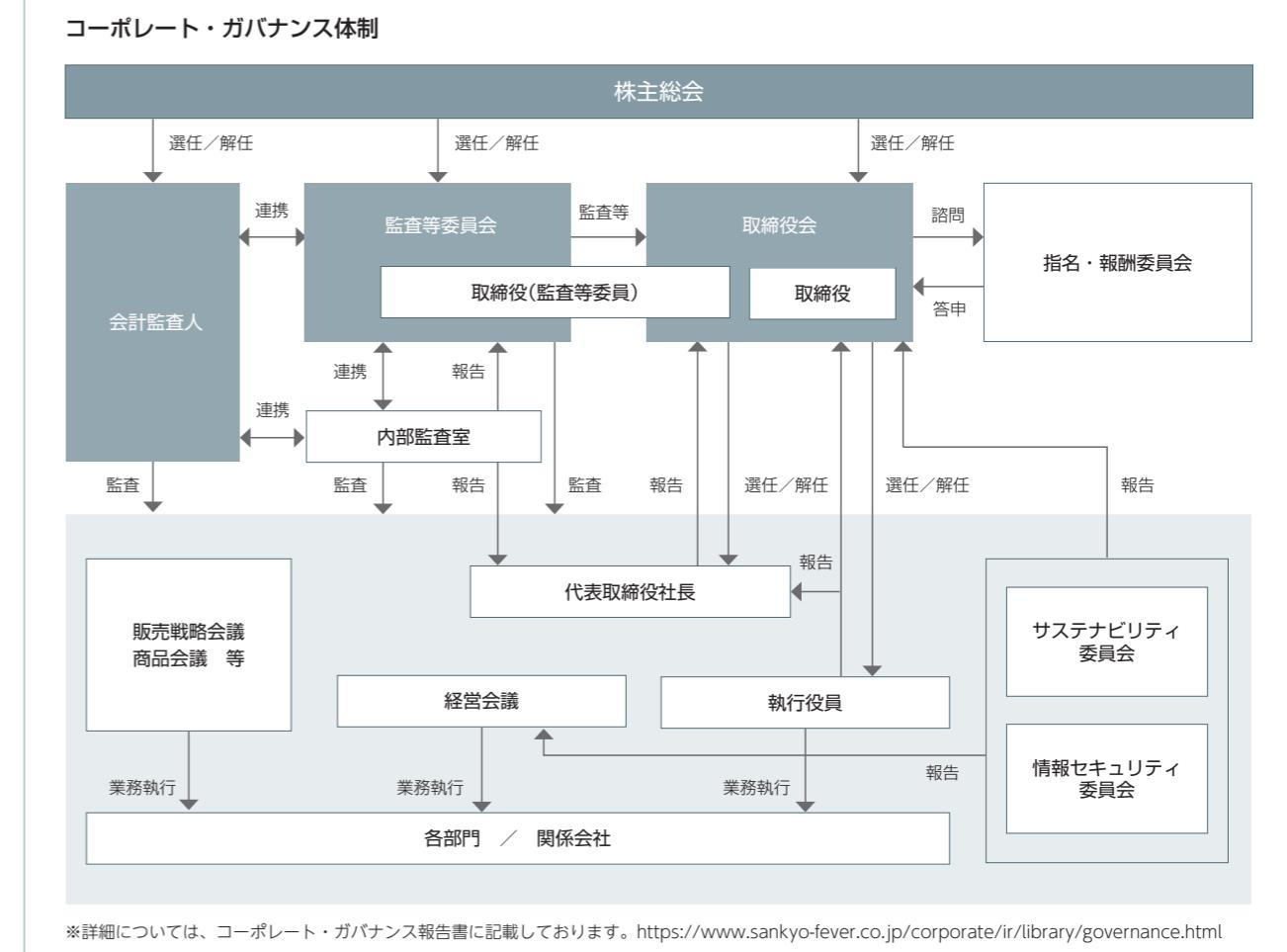
経営会議は、取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び執行役員で構成され、毎月定期的に開催し、取締役会

決議事項の事前審議や経営戦略事項、コンプライアンス及びリスク管理全般の統括等について、迅速かつ的確に意思決定し、当社の各部門とグループ会社に執行を指示しております。

指名・報酬委員会

当社は、独立社外取締役の適切な関与を得ることにより、取締役等の指名や報酬等に関する評価・決定手続きにおける客観性・透明性・公正性を確保し、コーポレート・ガバナンス体制の更なる充実を図るため、2024年1月に構成員の過半数を独立社外取締役とした任意の指名・報酬委員会を設置しております。

指名・報酬委員会は、取締役会の諮問または委任を受けて、取締役の指名及び経営陣幹部の選解任や報酬等に関する事項について審議し、答申または取締役会から委任された事項の決定を行います。



情報セキュリティ委員会

当社は、情報システム本部長が委員長、各部署長が情報セキュリティ管理責任者を務める情報セキュリティ委員会を2023年4月に設置し、社内システムやITインフラ等について、全社横断的な視点から効果・リスクの検討を行っております。

サステナビリティ委員会

当社は、ESG課題のみならず、持続可能性のためのあらゆる課題の検討・対応を目的として、2024年4月に「サステナビリティ委員会」を設置しております。

サステナビリティ委員会は、代表取締役社長が委員長を務め、各本部の本部長が構成委員となり、当社グループ全体のサステナビリティ方針や目標設定を行うとともに、各課題に対応する部署横断型のプロジェクトチームを編成し、

計画、実行、確認、修正のマネジメントサイクルを推進しております。重要事項についてはサステナビリティ委員会から取締役会及び経営会議に報告を行い、対応方針及び実行計画等について審議・監督・指示を行っております。

内部監査

当社は、内部監査部門として、内部監査室(4名)を設置しており、監査計画書に基づき、当社及び当社グループ会社を対象に法令及び規程等の遵守、業務プロセスの適正性の確保に重点を置いた監査を実施しております。往査やオフサイト監査を通じて、潜在するリスクの抽出を行うとともに、被監査部門に問題があれば改善を促し、その結果及び改善状況を定期的に社長及び監査等委員会に報告しております。

株主・投資家とのエンゲージメント

◆実施概要

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するよう株主・投資家との建設的な対話に積極的に取り組み、その内容を経営に活かすことにより、更なる企業価値向上に努めています。

当社は、株主・投資家との対話のための活動を担当・推進する専任部署(経営企画部IR室)を設置しており、対話全般はIR室が担当し、社長がこれを統括しています。2024年度は、第2四半期及び期末決算発表時に機関投資家向けに決算説明会を開催し、社長及び担当役員が株主・投資家との対話を行っております。また同時に、Webサイトにおいて決算説明会の説明内容の書き起こしについて、開示を行っております。投資家・アナリスト等との個別面談は、2024年度は166回実施、IR室長及び事務局が中心となって対応し、株主・投資家からの要請を踏まえ、合理的な範囲で社長や担当役員等が面談に臨んでいます。なお、2023年度は、個人投資家向けオンライン説明会を開催しており、今後も、個人投資家向けに様々な施策を検討していく予定です。

◆株主・投資家の意見や懸念等の経営陣に対するフィードバックの実施状況

面談や決算説明会等で得られた意見などは、タイムリーに取りまとめられ、報告書として経営陣にフィードバックしております。これら株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を通じて得られた意見や懸念等は、経営や情報開示の充実に活かしております。

►対話のテーマや株主・投資家の関心事項



◆英文資料の積極的な開示

当社は、2000年代より適時開示やアニュアルレポートの英文開示を開始するなど、早くから英文開示の充実を図っております。また、多くの英文開示は国内における開示と同日に公表するなど即時性も重視して取り組んでおります。今後も海外投資家の投資判断に資する情報について、英文開示に注力してまいります。

英文開示資料：

決算短信、その他適時開示情報、招集通知(要約)、コーポレート・ガバナンス報告書、決算説明資料

◆株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取り組み状況

- 早期の電子提供(WEBサイトへの開示)、招集通知の早期発送
- 電磁的方法による議決権の行使
- 機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームの採用
- 招集通知(要約)の英文での提供
- 議決権行使結果の速やかな開示

►IR年間スケジュール

第1四半期		第3四半期	
4月		10月	
	・本決算発表		
5月		11月	・第2四半期決算発表
	・定時株主総会／期末配当支払い		
6月		12月	・中間配当支払い
第2四半期		第4四半期	
7月		1月	
	・第1四半期決算発表		
8月		2月	・第3四半期決算発表
		3月	
9月			

役員の報酬等

◆役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社取締役会は以下の「取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針」(以下、決定方針)を決議しております(2021年2月8日決議、2024年6月27日改定)。

当社の取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除く。)の報酬等については、当社の業績並びに企業価値の持続的・安定的向上に向け、取締役に対するインセンティブとして十分に機能するよう、株主利益との連動性を高めた報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては、職務内容、業績、貢献度等を踏まえた水準とすることを基本方針としております。取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬及び賞与としての業績連動報酬並びに業績連動型株式報酬により構成しております。社外取締役の報酬等については、その職務に鑑み、基本報酬のみで構成しております。監査等委員である取締役の報酬等については、基本報酬と、業績に連動しない固定報酬としての賞与で構成しております。

◆基本報酬

基本報酬は、毎月末に定期同額給与を支給する固定報酬としております。取締役(監査等委員である取締役を除く。)の基本報酬は、過半数を独立社外取締役で構成する指名・

報酬委員会の審議を経た上で、取締役会にて決定しております。なお、監査等委員である取締役の報酬は監査等委員である取締役の協議により決定するものとしております。

◆業績連動報酬等並びに非金銭報酬等

業績連動報酬(賞与)は、7月の賞与支給日に支給することとし、株主総会の決議により定められた報酬限度額の範囲内で、取締役会において、前期の連結営業利益の達成度合いを基本に、当期の経営環境等も勘案して、標準額に対して0%から150%の範囲で決定するものとしております。また、執行役員の賞与についても、取締役と同様の方法で、業績連動を図るものとしております。なお、監査等委員である取締役(社外取締役を除く。)には、業績に連動しない固定報酬としての賞与を支給するものとしております。

非金銭報酬等は、業績連動型株式報酬としております。当社の取締役の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性を明確にし、当社の取締役が株価上昇によるメリットを享受するのみならず、価格下落リスクまでも株主の皆さまと共有することで、中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的としております。固定部分と業績連動部分の割合を1:4とし、株主総会の決議により定められた限度額の範囲内において、前期の連結営業利益

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数(2024年度)

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数(名)
		固定報酬	業績連動報酬	非金銭報酬等	
取締役 (監査等委員及び社外取締役を除く。)	1,218	419	468	331	5
監査等委員である取締役 (社外取締役を除く。)	55	55	—	—	2
監査役 (社外監査役を除く。)	6	6	—	—	2
社外役員	11	11	—	—	5

※1 当社は、2024年6月27日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。

2 非金銭報酬等の内容は、業績連動型株式報酬に関する2024年度の費用計上額であります。

の達成度合いを基本に決定し、毎年一定の時期にポイントとして付与するものとしております。なお、執行役員についても、取締役と同様の方法で、業績連動型株式報酬を付与するものとしております。

業績連動報酬及び非金銭報酬等は、取締役会で定めた算定方式に基づき決定するものとしますが、指名・報酬委員会の意見及び助言並びに監査等委員会からの意見等が提示された場合には、その意見等も踏まえて、取締役会において決定するものとしております。

業績連動報酬(賞与)並びに非金銭報酬等(業績連動型株式報酬)は、当社が本業による利益として重要視する連結営業利益を指標とし、各年度の連結営業利益の達成状況、並びに株式価値の変動により報酬の額が変動するため、報酬割合は増減しますが、標準額の支給となる場合、基本報酬、業績連動報酬(賞与)、非金銭報酬等(業績連動型株式報酬)の割合は、概ね5：3：2を基本として決定しております。

◆取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬限度額は、2024年6月27日開催の第59回定時株主総会において年額1,200百万円以内と決議しております(同定時株主総会終結時の取締役の員数は4名)。2024年6月27日開催の第59回定時株主総会において、上記に記載の取締役の報酬限度額とは別枠にて、業績連動型株式報酬の額を年額500百万円以内かつ62.5万株以内と決議しております(同定時株主総会終結時の本制度の対象となる取締役の員数は4名)。

監査等委員である取締役の報酬限度額は、2024年6月27日開催の第59回定時株主総会において年額200百万円以内と決議しております(同定時株主総会終結時の監査等委員である取締役の員数は5名)。なお、監査等委員である取締役の報酬は、独立性・客觀性の観点から固定報酬のみで構成されており、各監査等委員である取締役の報酬額は、監査等委員である取締役の協議によって決定しております。

◆2024年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

2024年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、過半数を独立社外取締役で構成する指名・報酬委員会が原案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っております。取締役会は基本的にその答申を尊重しており、2024年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容は、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

事業等のリスク

当社グループの2026年3月期及び将来における経営成績や株価、財政状態等に影響を及ぼすおそれのある経営上のリスクに下記のものが考えられます。なお、文中の将来に関する記述は2025年3月期末現在において当社グループが想定し、判断したものですですが、発生の可能性があるリスクのすべてを網羅したものではありません。

◆市場環境の変化

当社グループの主たる事業である遊技機及び補給機器等の販売における主な顧客はパーラーです。パーラーの経営環境悪化及びそれに伴う需要の縮小や市場構造の変化は当社グループの販売成績を左右する要因になります。

特に昨今はパーラーの遊技機に対する評価の目は厳しく、ファンを飽きさせないような人気が長続きする商品を厳選導入する機運が強まり、その他大半の商品は十分な注目を集めに至っておりません。当社グループでは商品競争力の強化を図りシェアの拡大につなげることを目指しておりますが、遊技機の開発には1年から2年前後の期間を要するため、開発着手後の市場ニーズの変化に柔軟に対応できなかつた場合や、他社の人気商品などと販売時期が重なつた場合、当社グループの販売計画や経営成績等が影響を受ける可能性が考えられます。

◆法的規制について

当社グループが主たる事業とする遊技機の開発、製造及び販売に関しては、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」など様々な法規制・基準があり、これに則った厳正な運用が求められております。従って、法規制等に重大な変更が加えられた場合、当社グループの販売、経営成績等に影響を及ぼす可能性があると考えられます。

◆知的財産権について

近年では、著名人やアニメ、人気キャラクターなどとタイアップした遊技機が主流となっております。こうした流れにおいて、採用キャラクターなどの肖像権や著作権といった知的財産権の取扱いが増えるに従って、知的財産を巡る係争も増加しております。

当社グループでは、「知的財産本部」を中心にして、キャラクター等の取扱いにあたっては十分な調査を実施し、当

該係争を回避するため細心の注意を払っております。ただし、今後当社の認識しない新たな知的財産権が成立した場合には、当該権利保有者による損害賠償の請求などに至る危険性も否定できません。その際、当社側に侵害行為が認められた場合には、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

◆新機種の開発について

パチンコ及びパチスロ等遊技機の製造及び販売に当たっては、一般財団法人保安通信協会(保通協)等、国家公安委員会が指定する試験機関が風営法施行規則等に基づいて実施する型式試験に適合する必要があります。昨今のファンニーズの高度化や遊技機の技術構造の進化への対応が必要となる一方で、型式試験の期間が長期間に亘ったり、適合に至らなかった場合、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性も考えられます。当社グループといたしましては、長年培ってきた商品の開発技術力やノウハウを活かして、当初計画に即した順調な新機種投入に努めてまいります。

◆感染症拡大について

新型コロナウイルス等の感染症が拡大した場合、当社グループの主要販売先である全国のパーラーにおいては、稼働の低下による厳しい経営環境を余儀なくされる可能性があり、当社グループの主たる事業であるパチンコ機関連事業・パチスロ機関連事業においては遊技機の販売、補給機器関連事業においては内装施工、補給機器等の受注に影響を及ぼす可能性があります。

一方、感染症拡大によるサプライチェーンの混乱も予想されますが、当社グループでは、複数の調達先の確保や先行発注、代替品の手配に注力することで、遊技機の販売台数や販売スケジュールなどへの影響を最小限に留めてまいります。

役員プロフィール(2025年6月27日現在)

<取締役>

取締役会長

毒島 秀行

1952年9月30日生

1985年 6月 当社常務取締役
1988年 1月 当社専務取締役
1992年 2月 当社代表取締役専務
1992年 6月 当社代表取締役副社長
1996年 6月 当社代表取締役社長
2008年 4月 当社代表取締役会長CEO
2022年 4月 当社取締役会長(現任)

代表取締役社長CEO兼COO

小倉 敏男

1962年3月12日生

●重要な兼職の状況
株式会社ゲームカード・
ジョイコホールディングス
社外取締役

2012年 4月 当社執行役員知的財産本部長
兼知的財産部長
2015年 4月 当社常務執行役員知的財産本部長
2018年 4月 当社専務執行役員知的財産本部長
2019年 1月 当社専務執行役員知的財産本部長
兼商品本部副本部長
2021年 4月 当社専務執行役員知的財産本部長
兼商品本部副本部長兼開発部長
2022年 4月 当社専務執行役員商品本部長
2024年 6月 当社取締役専務執行役員
商品本部長
2025年 6月 当社代表取締役専務執行役員
商品本部長
株式会社ゲームカード・ジョイコ
ホールディングス社外取締役(現任)
当社代表取締役社長CEO兼COO(現任)

代表取締役副社長執行役員

高橋 博史

1962年7月14日生

2018年 4月 当社執行役員管理本部副本部長
兼経理部長
2021年 6月 当社執行役員管理本部副本部長
兼経営企画部長兼経理部長
2022年 4月 当社常務執行役員管理本部長
兼経営企画部長
2024年 4月 当社専務執行役員管理本部長
兼経営企画部長
2025年 6月 当社代表取締役副社長執行役員
経営企画部管掌(現任)

取締役

鶴岡 淳子

1962年2月23日生

1996年 6月 当社社長秘書
2001年 4月 当社総務部秘書課長
2019年 4月 当社会長秘書
2024年 4月 当社秘書室長
2024年 6月 当社取締役秘書室長(現任)

取締役のスキルマトリックス

	氏名	役職	指名・報酬委員会	サステナビリティ委員会	企業経営	人事・人材	管理・経営企画・財務	開発・製造	マーケティング・ブランディング	サステナビリティ	法務・コンプライアンス
取締役	毒島 秀行	取締役会長			●	●	●				●
	小倉 敏男	代表取締役社長CEO兼COO	◎	◎	●	●		●	●		
	高橋 博史	代表取締役副社長執行役員 経営企画部管掌		○	●	●	●			●	
	鶴岡 淳子	取締役秘書室長			●	●				●	●
取締役監査等委員	五十嵐 洋子	取締役常勤監査等委員 委員長				●		●			●
	石山 俊明	取締役監査等委員					●				
	木谷 太郎	社外取締役監査等委員	○					●			●
	山崎 博行	社外取締役監査等委員	○		●				●		
取締役監査等委員	三浦 厳嗣	社外取締役監査等委員 取締役会長						●			

*指名・報酬委員会、サステナビリティ委員会は、委員長に◎、委員に○をつけております。サステナビリティ委員会は代表取締役社長を委員長とし、各本部の責任者、管理部門各部署長などで構成されます。

*各人の有する専門性と経験等に基づき、当社が特に期待する分野（最大4つ）に●をつけております。

*上記一覧表は、各人の有する全てのスキル等を表すものではありません。

<取締役 監査等委員>

取締役 常勤監査等委員

委員長

五十嵐 洋子

1956年9月3日生

2010年 4月 当社管理本部経理部長
2012年 4月 当社執行役員管理本部経理部長
2015年 4月 当社常務執行役員管理本部長
2018年 4月 当社常務執行役員管理本部長
兼事業企画部管掌
2021年 4月 当社常務執行役員管理本部長
兼事業企画部管掌兼総務部長
2021年 6月 当社専務執行役員管理本部長
兼製造本部・事業企画部管掌兼総務部長
2022年 4月 当社専務執行役員製造本部・管理本部・
事業企画部管掌
2023年 4月 当社顧問
2023年 6月 当社常勤監査役
2024年 6月 当社取締役常勤監査等委員 委員長(現任)

取締役 監査等委員

石山 俊明

1956年9月17日生

1994年 6月 当社監査役
2012年 1月 野田典義税理士事務所入所(現任)
2015年 9月 税理士登録
2024年 6月 当社取締役監査等委員(現任)

社外取締役 監査等委員

木谷 太郎

1976年5月4日生

2004年 10月 弁護士登録、
光和総合法律事務所入所(現任)
2015年 6月 当社社外取締役
2024年 6月 当社社外取締役監査等委員(現任)

社外取締役 監査等委員

山崎 博行

1954年9月5日生

1982年 10月 監査法人中央会計事務所入所
1994年 9月 中央監査法人社員
2000年 8月 中央青山監査法人代表社員
2005年 10月 同監査法人理事
2006年 5月 同監査法人理事代行
2007年 11月 新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)シニアパートナー
2008年 8月 新日本有限責任監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)常務理事
2013年 7月 日本ベンチャーキャピタル協会監事
2017年 7月 公認会計士山崎博行事務所所長(現任)
2018年 6月 株式会社UACJ社外監査役(現任)
当社社外取締役
2020年 12月 株式会社ランドビジネス取締役副社長
2024年 6月 当社社外取締役監査等委員(現任)

社外取締役 監査等委員

三浦 厳嗣

1963年2月19日生

1987年 4月 株式会社リクルート入社
1990年 10月 株式会社オックスプランニングセンター(現株式会社クラウドポイント)設立
代表取締役(現任)
2002年 6月 株式会社ビスティ監査役
2009年 10月 株式会社キャドセンター社外取締役
2015年 6月 当社社外取締役(2017年6月退任)
2022年 3月 株式会社シービープラス取締役(現任)
2023年 11月 アラ株式会社(現ペイクラウドホールディングス株式会社)
取締役会長(現任)
2024年 6月 当社社外取締役監査等委員(現任)

当期の経営成績は、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、統合報告書発行日現在において当社グループが判断したものであります。

当期の経営環境

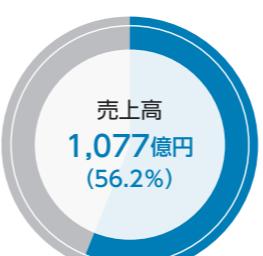
当連結会計年度におけるパチンコ・パチスロ業界は、スマートパチンコ機(以下、スマパチ)を対象としたゲーム性の拡充を契機に、スマパチの普及に進展が見られ、複数のヒット機種が登場するなど明るい兆しがあるものの、パチンコ市場の稼働状況は依然としてやや低調に推移しております。一方、スマートパチスロ機(以下、スマスロ)は順調に普及が進み、パチスロ市場の稼働は堅調に推移するものの、前年度の大型人気機種の反動や、スマスロの普及率が高まったことによる入替需要の一服感などから、総販売台数は前年度を下回る結果となりました。

当社グループでは、パチンコ機関連事業におきましては、ゲーム性が拡充されたスマパチを積極展開することで需要を喚起し、主力タイトルのシリーズ機を中心に販売台数を

積み重ね、3年連続のトップシェアを獲得することができます。また、パチスロ機関連事業におきましては、2022年11月にスマスロ第一弾を発売以来、継続して高稼働機種を創出し、パチスロ市場における当社グループの存在感が増す中、その勢いを維持し、新規タイトルの好調な販売と増産ニーズへの対応により、販売台数を大幅に伸ばしました。その結果、当社として初めてトップシェアを獲得し、パチンコ・パチスロ両市場における年間トップシェア獲得という業界初の快挙を達成することができました。

以上の結果、売上高1,918億円(前期比3.7%減)、営業利益736億円(同1.5%増)、経常利益745億円(同1.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益539億円(同0.4%増)となりました。

パチンコ機関連事業



当事業はパチンコ機、パチンコ機ゲージ盤の製造販売、関連部品販売及びパチンコ機関連ロイヤリティー収入の売上が中心となっており、全売上高の56.2%を占める主力事業です。

パチンコ機関連事業につきましては、新規8タイトル(リユース機等を除く)を発売いたしました。主な販売タイトルは、SANKYOブランドの「フィーバーからくりサーカス2」(2024年11月)、「フィーバー戦姫絶唱シンフォギア4」(2025年1月)、Bistyブランドの「宇宙戦艦ヤマト2202 超波動」(2024年10月)、「ゴジラ対エヴァンゲリオン セカンドインパクト G」(2024年12月)であります。

以上の結果、売上高1,077億円(前期比26.7%減)、営業利益438億円(同28.4%減)、販売台数224千台となりました。

2025年3月期 新規販売タイトル

	販売時期	販売台数
フィーバーマクロスフロンティア5	2024年4月	20.4千台
フィーバー三国戦騎7500	2024年6月	8.5千台
フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン 再来-白き一角獣と黒き獅子-	2024年8月	35.6千台
宇宙戦艦ヤマト2202 超波動	2024年10月	13.0千台
フィーバーからくりサーカス2	2024年11月	24.8千台
ゴジラ対エヴァンゲリオン セカンドインパクト G	2024年12月	28.4千台
フィーバー戦姫絶唱シンフォギア4	2025年1月	36.5千台
フィーバーダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか2	2025年3月	16.8千台

パチスロ機関連事業



当事業はパチスロ機の製造販売、関連部品販売及びパチスロ機関連ロイヤリティー収入の売上が中心となっており、全売上高の33.1%を占めています。

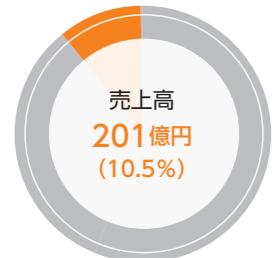
パチスロ機関連事業につきましては、新規6タイトルを発売いたしました。主な販売タイトルは、SANKYOブランドの「Lパチスロ 戦姫絶唱シンフォギア 正義の歌」(2024年7月)、「Lパチスロ かぐや様は告らせたい」(2024年9月)、Bistyブランドの「Lパチスロ シン・エヴァンゲリオン」(2025年1月)であります。2023年7月の発売以来、高稼働を続けています。「パチスロ からくりサークル」をはじめ、複数タイトルの増産も行っております。

以上の結果、売上高634億円(前期比97.4%増)、営業利益356億円(同133.4%増)、販売台数131千台となりました。

2025年3月期 新規販売タイトル

	販売時期	販売台数
Lパチスロ 炎炎ノ消防隊	2024年5月	16.2千台
Lパチスロ 戦姫絶唱シンフォギア 正義の歌	2024年7月	21.5千台
Lパチスロ かぐや様は告らせたい	2024年9月	20.9千台
Lパチスロ ダンベル何キロ持てる？	2024年12月	20.6千台
Lパチスロ シン・エヴァンゲリオン	2025年1月	11.2千台
Lパチスロ ありふれた職業で世界最強	2025年2月	9.7千台

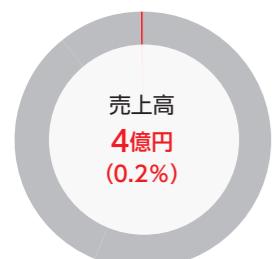
補給機器関連事業



当事業はパチンコ・パチスロ補給装置、カードシステム、ホール設備周辺機器販売及び補給機器関連ロイヤリティー収入の売上が中心となっており、全売上高の10.5%を占めています。

補給機器関連事業につきましては、売上高201億円(前期比3.4%増)、営業利益14億円(同7.5%減)となりました。

その他の事業



当事業は不動産賃貸収入、一般成形部品の販売等の売上が中心となっており、全売上高の0.2%を占めています。

その他につきましては、売上高4億円(前期比13.5%増)、営業利益1億円(同13.9%増)となりました。

事業種別セグメント情報

	2024年3月期	2025年3月期	前期比
売上高			
パチンコ機関連事業	147,042	107,725	△26.7%
パチスロ機関連事業	32,143	63,462	97.4%
補給機器関連事業	19,497	20,161	3.4%
その他の事業	416	472	13.5%
合計	199,099	191,821	△3.7%

	2024年3月期	2025年3月期	前期比
営業利益			
パチンコ機関連事業	61,165	43,815	△28.4%
パチスロ機関連事業	15,289	35,686	133.4%
補給機器関連事業	1,582	1,463	△7.5%
その他の事業	159	181	13.9%
消去又は全社	△5,701	△7,542	—
合計	72,495	73,605	1.5%

次期(2026年3月期)の業績見通し

次期(2026年3月期)の市場環境につきましては、パチンコでは『ラッキートリガー3.0プラス』、パチスロでは『ボーナストリガー』といった、新たなゲーム性を有した商品の登場が決定しており、これらゲーム性の拡充が、市場の活性化に寄与することが期待されております。

このような環境下、当社グループでは、パチンコ機・パチスロ機関連事業において、引き続きスマート遊技機の開発を推進するとともに、新たなゲーム性を有した商品開発にも積

極的に取り組み、パチンコ市場においては、4期連続となるトップシェアの獲得、パチスロ市場では、トップグループの一員としての地位を確固たるものにすべく、両事業において機種ラインナップを充実させてまいります。

以上に基づき、当社グループの次期のパチンコ販売台数は230千台、パチスロ販売台数は132千台を計画しており、連結業績見通しは次のとおりであります。

	2025年3月期実績	2026年3月期見通し	前期比
売上高	1,918	1,850	△3.6%
営業利益	736	630	△14.4%
経常利益	745	640	△14.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	539	440	△18.5%

株主還元・配当政策

当社では、株主の皆さまへの利益の還元を経営上の最重要課題のひとつとして位置付けており、配当金につきましては、連結配当性向40%を目安とした業績運動型配当を行うことを基本方針としております。ただし、1株当たりの年間配当金については下限を20円と設定し、安定配当の要素を取り入れることいたします。

なお、中間配当金につきましては、第2四半期累計期間の連結配当性向40%を配当金総額の目安としますが、中間配当額を決定する時点での通期1株当たり配当金予想金額の50%を上限とします。

上記配当方針に基づき、当期の配当につきましては、1株につき中間配当金40円、期末配当金60円(年間配当金100円、連結の配当性向は40.7%)とさせていただきます。次期の配当につきましては、年間配当金1株につき90円(中間、期末の内訳は未定、連結の配当性向は41.6%)とさせていただく予定であります。

今後の利益配分及び内部留保の活用方法につきましては、業績運動型配当を基本としつつ、成長のための事業投資、自己株式取得による機動的な株主還元などに適正な配分となるよう有効活用してまいります。

連結経営指標

3月31日に終了した会計年度

決算期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
損益の状況(百万円):					
売上高	58,129	84,857	157,296	199,099	191,821
売上原価	27,403	37,037	66,380	88,420	79,492
売上総利益	30,726	47,819	90,916	110,679	112,328
販売費及び一般管理費	24,138	26,462	32,383	38,184	38,723
営業利益	6,587	21,357	58,532	72,495	73,605
経常利益	7,488	22,257	59,341	73,182	74,587
親会社株主に帰属する当期純利益	5,749	18,466	46,893	53,791	53,992
キャッシュ・フローの状況(百万円):					
営業キャッシュ・フロー	10,563	22,707	35,103	47,589	58,036
減価償却費	2,398	2,113	1,838	2,916	2,800
投資キャッシュ・フロー	29,638	8,877	6,655	15,118	△ 3,580
フリー・キャッシュ・フロー	40,201	31,584	41,758	62,707	54,456
現金及び現金同等物	203,318	218,012	252,609	205,440	240,050
財政状態(百万円):					
総資産	292,104	309,213	365,950	292,119	336,709
純資産	268,887	270,120	310,259	251,579	285,004
自己資本	267,121	268,519	308,420	249,863	283,414
1株当たりリーダータ(円):					
1株当たり当期純利益(EPS)	18.79	61.01	161.50	203.81	245.93
1株当たり純資産	873.16	921.85	1,062.36	1,139.12	1,290.54
1株当たり配当金	30.00	20.00	30.00	80.00	100.00
主な指標:					
営業利益率(%)	11.3	25.2	37.2	36.4	38.4
当期純利益率(ROS)(%)	9.9	21.8	29.8	27.0	28.1
株主資本利益率(ROE)(%)	2.1	6.9	16.3	19.3	20.2
総資産利益率(ROA)(%)	2.4	7.4	17.6	22.2	23.7
総資産回転率(倍)	0.19	0.28	0.47	0.61	0.61
財務レバレッジ(倍)	1.15	1.12	1.16	1.17	1.17
自己資本比率(%)	91.4	86.8	84.3	85.5	84.2
配当性向(%)	159.6	32.8	18.6	39.3	40.7
事業データ:					
パチンコ販売台数(台)	126,565	164,590	268,726	297,648	224,497
パチスロ販売台数(台)	7,679	22,433	51,581	70,379	131,368

(注1) 当社は、2024年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。そのため、2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益、1株当たり純資産及び1株当たり配当金を算定しております。

(注2) ROA = 経常利益／総資産 (年間平均)

ESG データ

◆ 環境・社会・ガバナンスデータ (連結)

項目	単位	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
E:環境				
温室効果ガス排出量	t -CO ₂	959.0	935.0	923.0
電気使用量	MWh	9,299.4	9,212.6	9,029.4
水使用量 ^{*1}	m ³	2,725.0	1,542.0	1,532.0
産業廃棄物排出量 ^{*1}	t	306.0	581.7	311.2
遊技機リサイクル率	%	97.6	98.4	98.7
パチンコ	%	86.0	85.6	85.8
パチスロ	%	49.0	46.0	52.0
遊技機共通部品比率	%	81.0	75.0	77.0
環境法令違反件数	件	0	0	0
S:社会				
従業員数				
全体 (連結)	人	864	878	886
男性	人	752	767	773
女性	人	112	111	113
全従業員に占める女性の割合	%	13.0	12.6	12.8
全従業員に占める非正社員の割合	%	3.0	3.4	4.4
障がい者雇用率 ^{*2}	%	2.5	2.8	2.4
管理職人数				
全体 (連結)	人	174	179	187
男性	人	168	172	180
女性	人	6	7	7
平均勤続年数 ^{*3}	年	18.8	18.8	19.0
女性	年	19.0	19.1	19.3
男性	年	16.8	17.1	16.5
平均年齢 ^{*3}	歳	44.3	44.5	44.7
女性	歳	44.5	44.7	45.0
男性	歳	42.9	43.3	42.7
新規雇用全体	人	11	33	32
新卒採用全体	人	5	19	19
男性	人	5	16	16
女性	人	0	3	3
中途採用全体	人	6	14	13
男性	人	4	14	8
女性	人	2	0	5

*1 (株) SANKYO三和工場データ

*2 障がい者雇用率については各年度の6月1日時点のデータ

*3 (株) SANKYO単体データ

◆環境・社会・ガバナンスデータ（連結）

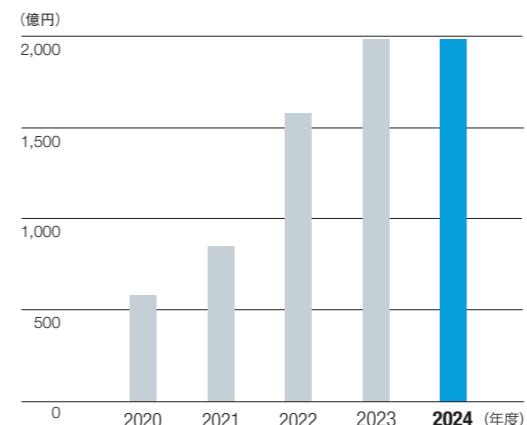
項目	単位	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
S: 社会(続き)				
従業員の自発的離職率	全体（連結）	%	3.4	2.8
	全労働者割合	%	69.9	63.4
労働者の男女賃金差異	正規雇用労働者割合	%	69.7	63.2
	パート・有期労働者割合	%	79.8	74.7
育児休業取得率*1	全体	%	23.1	20.0
	男性	%	0.0	0.0
	女性	%	100.0	100.0
育児休業後復職率*1	全体	%	100.0	100.0
	男性	%	—	—
	女性	%	100.0	100.0
有給取得率*1		%	56.0	54.3
月平均時間外労働時間*1		時間	16.6	16.9
寄附総額及びその他社会貢献を目的とした各種事業への支出額		円	23,840,000	21,880,000
G: ガバナンス*1				
取締役人数	全体	人	5	5
	男性	人	5	5
	女性	人	0	0
社内取締役人数	全体	人	3	3
	男性	人	3	3
	女性	人	0	0
社外取締役人数	全体	人	2	2
	男性	人	2	2
	女性	人	0	0
監査役人数	全体	人	4	4
	社内	人	2	2
	社外	人	2	2
監査等委員人数	全体	人	—	—
	社内	人	—	—
	社外	人	—	—
取締役会開催回数		回	15	17
監査役会開催回数		回	5	5
監査等委員会開催回数		回	—	—
腐敗行為に関する事案の発生件数		件	0	0
反競争的行為に関する事案の発生件数		件	0	0

※1 (株)SANKYO単体データ

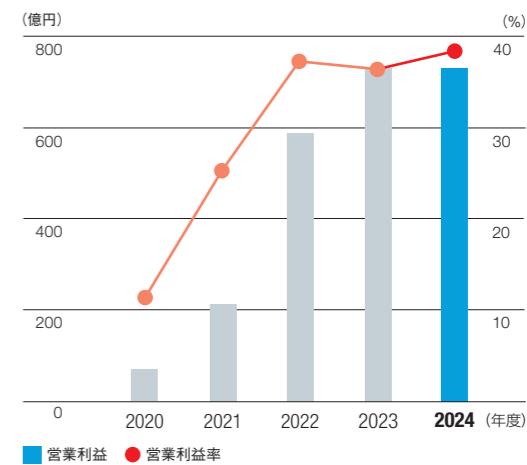


財務データ

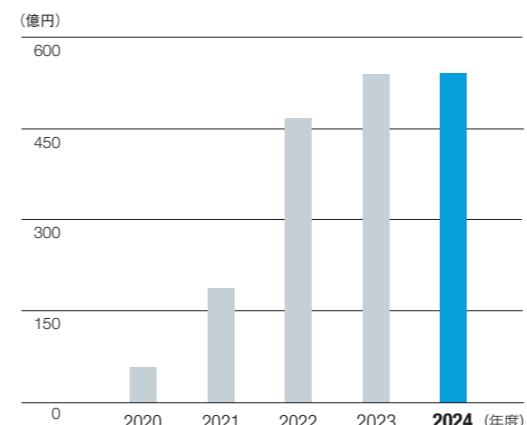
売上高



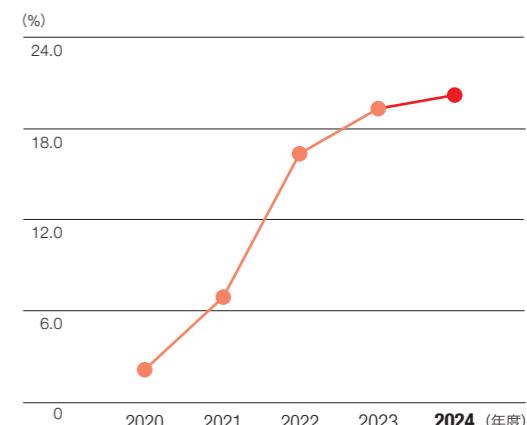
営業利益・営業利益率



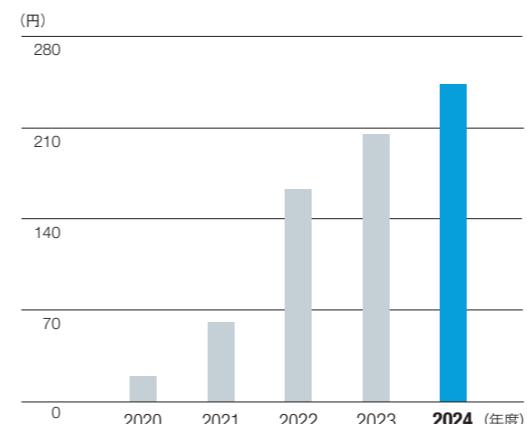
親会社株主に帰属する当期純利益



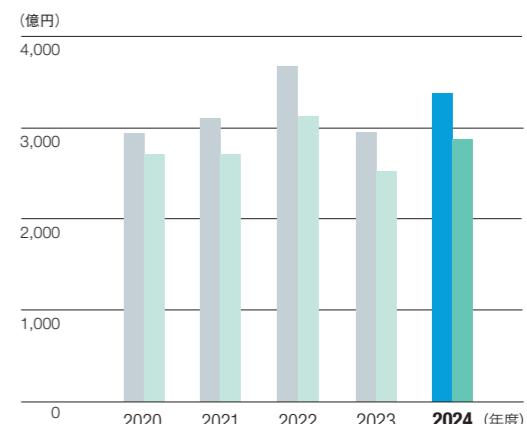
株主資本利益率(ROE)



1株当たり当期純利益(EPS)

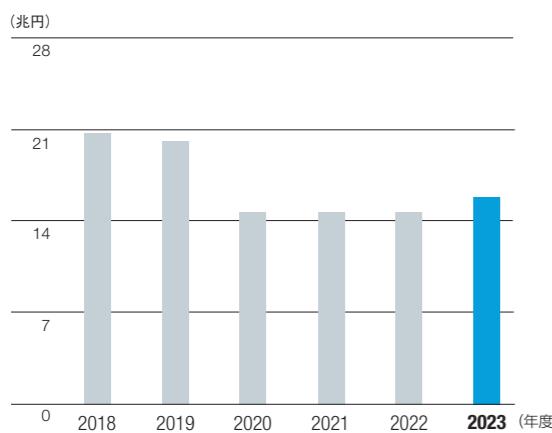


総資産・純資産

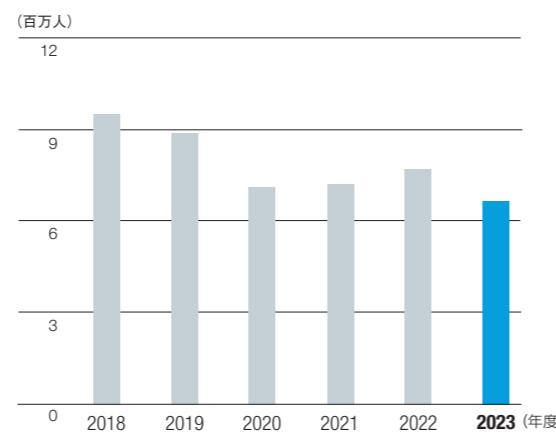




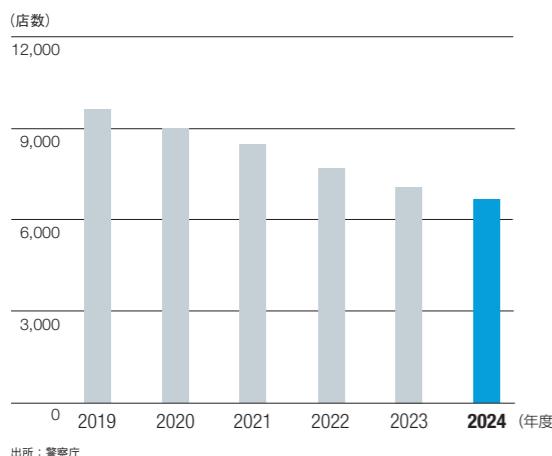
賃玉料・賃メダル料



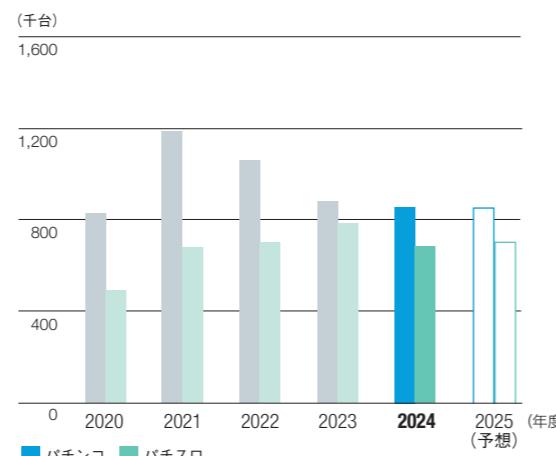
パチンコ・パチスロファン人口



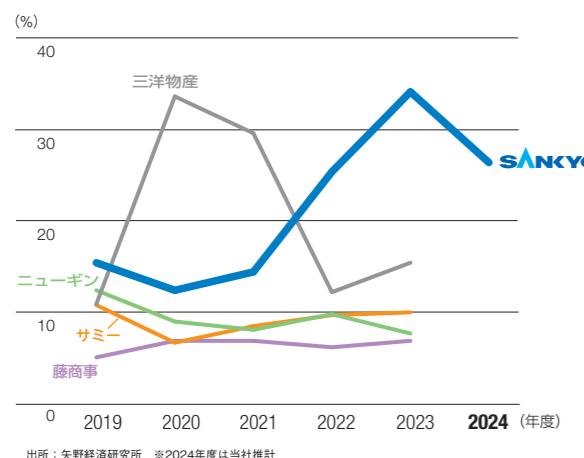
パーラー店舗数



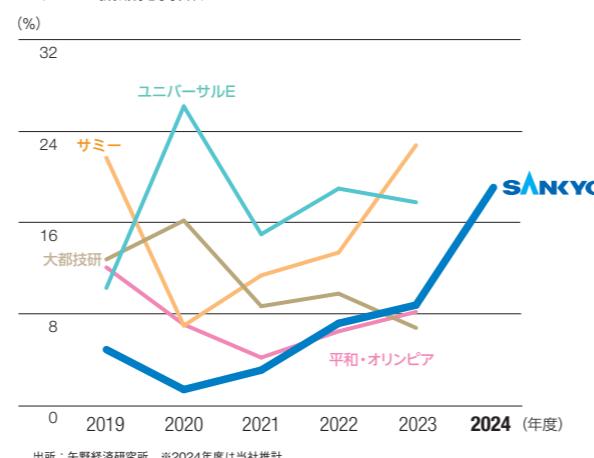
パチンコ/パチスロ機総販売台数



パチンコ機販売台数シェア



パチスロ機販売台数シェア



◆ 連結貸借対照表

	2024年3月期	2025年3月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	130,441	180,064
受取手形	6,597	5,662
売掛金	10,395	10,331
電子記録債権	6,357	6,400
有価証券	74,999	59,985
商品及び製品	510	3,441
仕掛品	705	133
原材料及び貯蔵品	14,553	15,934
有償支給未収入金	4,937	9,881
その他	1,976	2,720
貸倒引当金	△9	△13
流動資産合計	251,465	294,541
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,272	14,851
減価償却累計額	△8,851	△8,969
建物及び構築物(純額)	5,420	5,881
機械装置及び運搬具	7,456	7,420
減価償却累計額	△6,473	△6,360
機械装置及び運搬具(純額)	982	1,060
工具、器具及び備品	12,711	13,328
減価償却累計額	△10,093	△10,229
工具、器具及び備品(純額)	2,617	3,099
土地	17,447	17,335
建設仮勘定	162	105
有形固定資産合計	26,630	27,482
無形固定資産		
その他	185	327
無形固定資産合計	185	327
投資その他の資産		
投資有価証券	6,601	5,349
長期貸付金	50	24
繰延税金資産	6,195	7,740
その他	1,040	1,264
貸倒引当金	△48	△22
投資その他の資産合計	13,838	14,357
固定資産合計	40,654	42,167
資産合計	292,119	336,709

	2024年3月期	2025年3月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,444	12,623
未払法人税等	10,311	16,769
契約負債	11	16
賞与引当金	847	870
株主優待引当金	162	154
その他	12,574	11,426
流動負債合計	31,352	41,860
固定負債		
株式給付引当金	489	933
退職給付に係る負債	5,128	5,254
資産除去債務	76	76
その他	3,493	3,580
固定負債合計	9,187	9,844
負債合計	40,539	51,704
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,840	14,840
資本剰余金	23,750	23,750
利益剰余金	256,751	290,721
自己株式	△48,686	△48,375
株主資本合計	246,654	280,936
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,240	2,524
退職給付に係る調整累計額	△32	△46
その他の包括利益累計額合計	3,208	2,478
新株予約権	1,716	1,590
純資産合計	251,579	285,004
負債純資産合計	292,119	336,709

連結財務諸表

◆ 連結損益計算書

	(単位:百万円)	
	2024年3月期	2025年3月期
売上高	199,099	191,821
売上原価	88,420	79,492
売上総利益	110,679	112,328
販売費及び一般管理費	38,184	38,723
営業利益	72,495	73,605
営業外収益		
受取利息	52	236
受取配当金	337	405
受取ロイヤリティー	127	139
その他	192	209
営業外収益合計	710	991
営業外費用		
投資事業組合運用損	19	2
その他	3	5
営業外費用合計	23	8
経常利益	73,182	74,587
特別利益		
固定資産売却益	8	1
投資有価証券売却益	2,196	539
特別利益合計	2,205	540
特別損失		
固定資産売却損	7	—
固定資産廃棄損	103	10
減損損失	—	113
特別損失合計	111	124
税金等調整前当期純利益	75,276	75,003
法人税、住民税及び事業税	21,454	22,281
法人税等調整額	30	△1,270
法人税等合計	21,484	21,010
当期純利益	53,791	53,992
親会社株主に帰属する当期純利益	53,791	53,992

◆ 連結包括利益計算書

	(単位:百万円)	
	2024年3月期	2025年3月期
当期純利益	53,791	53,992
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,551	△716
退職給付に係る調整額	△1	△14
その他の包括利益合計	△2,552	△730
包括利益	51,238	53,262
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	51,238	53,262
非支配株主に係る包括利益	—	—

◆ 連結株主資本等変動計算書

	(単位:百万円)									
	株主資本		その他の包括利益累計額							
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	新株予約権	純資産合計
当期首残高	14,840	23,750	293,670	△29,602	302,658	5,791	△30	5,761	1,839	310,259
当期変動額										
剩余金の配当			△13,346		△13,346					△13,346
親会社株主に帰属する 当期純利益					53,791	53,791				53,791
自己株式の取得					△96,529	△96,529				△96,529
株式給付信託による 自己株式の取得					△1,550	△1,550				△1,550
自己株式の処分				559	1,071	1,630				1,630
株式給付信託による 自己株式の処分						—				—
自己株式の消却			△559	△77,364	77,923	—				—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△2,551	△1	△2,552	△123	△2,675
当期変動額合計	—	—	△36,919	△19,084	△56,003	△2,551	△1	△2,552	△123	△58,679
当期末残高	14,840	23,750	256,751	△48,686	246,654	3,240	△32	3,208	1,716	251,579

2025年3月期

	(単位:百万円)									
	株主資本		その他の包括利益累計額							
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	新株予約権	純資産合計
当期首残高	14,840	23,750	256,751	△48,686	246,654	3,240	△32	3,208	1,716	251,579
当期変動額										
剩余金の配当			△19,872		△19,872					△19,872
親会社株主に帰属する 当期純利益					53,992	53,992				53,992
自己株式の取得				△0	△0					△0
株式給付信託による 自己株式の取得					—					—
自己株式の処分			△150	276	126					126
株式給付信託による 自己株式の処分					34	34				34
自己株式の消却					—					—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△716	△14	△730	△126	△856
当期変動額合計	—	—	33,970	310	34,281	△716	△14	△730	△126	33,424
当期末残高	14,840	23,750	290,721	△48,375	280,936	2,524	△46	2,478	1,590	285,004

連結財務諸表

◆連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	75,276	75,003
減価償却費	2,916	2,800
貸倒引当金の増減額(△は減少)	12	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	65	23
株主優待引当金の増減額(△は減少)	11	△8
株式給付引当金の増減額(△は減少)	489	444
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	159	105
受取利息及び受取配当金	△389	△641
有形及び無形固定資産売却損益(△は益)	△1	△1
固定資産廃棄損	103	10
減損損失	—	113
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,196	△539
売上債権の増減額(△は増加)	4,755	956
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,177	△3,739
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,857	5,178
有償支給未収入金の増減額(△は増加)	4,864	△4,944
未払金の増減額(△は減少)	178	△148
未払消費税等の増減額(△は減少)	△308	△1,556
その他	△2,244	398
小計	75,657	73,434
利息及び配当金の受取額	304	516
法人税等の支払額	△28,372	△15,913
営業活動によるキャッシュ・フロー	47,589	58,036
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△25,000	—
有価証券の償還による収入	40,000	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,966	△4,242
投資有価証券の売却による収入	3,356	806
貸付金の回収による収入	5	5
その他	△276	△150
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,118	△3,580
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△98,079	△0
自己株式の売却による収入	1,550	25
配当金の支払額	△13,346	△19,872
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109,875	△19,846
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△47,168	34,609
現金及び現金同等物の期首残高	252,609	205,440
現金及び現金同等物の期末残高	205,440	240,050

会社情報／株式情報

会社概要 (2025年3月31日現在)

商 号
株式会社 SANKYO



本 社
〒150-8327
東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
電話 : 03-5778-7777(代表)

三和工場
〒372-0011
群馬県伊勢崎市三和町2732-1



設 立
1966年4月
資 本 金
148億4千万円
従 業 員 数
886名(連結)
751名(単体)

株式情報 (2025年3月31日現在)

事業年度
4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会
6月開催
基準日
定期株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
発行可能株式総数
500,000,000株
発行済株式総数
260,000,000株
単元株式数
100株
株主数
22,116名
上場取引所
東京証券取引所 プライム市場
証券コード
6417
株主名簿管理人
三井住友信託銀行株式会社
会計監査人
EY新日本有限責任監査法人

役員 (2025年6月27日現在)

取締役会長
毒島秀行

代表取締役社長
(CEO 兼 COO)
小倉敏男

代表取締役副社長執行役員
高橋博史

取締役
鶴岡淳子

取締役常勤監査等委員 委員長
五十嵐洋子

取締役監査等委員
石山俊明

社外取締役監査等委員
木谷太郎
山崎博行
三浦嚴嗣

専務執行役員
東郷裕二
高林慎悟

常務執行役員
高井克昌
安藤正登
毒島壯
赤石昌大
長谷川浩二
井上卓
堤順一
依田英之
羽地隆

執行役員
周藤圭二
猶井亮
井東真一

SANKYOについて
サステナビリティ

財務セクション・その他

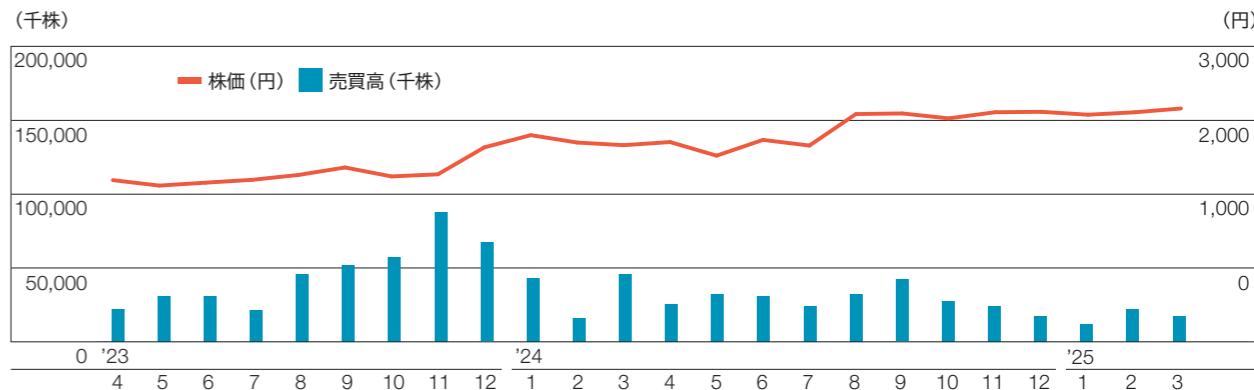
大株主の状況 (2025年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行 行株式会社(信託口)	35,736	16.17
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	14,550	6.58
JP MORGAN CHASE BANK 380055	11,252	5.09
毒島秀行	8,000	3.62
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	4,575	2.07
毒島壯	4,339	1.96
毒島章子	4,000	1.81
株式会社マーフコポレーション	4,000	1.81
J Pモルガン証券株式会社	3,918	1.77
小森雅子	3,072	1.39

(注) 1. 持株数は千株未満、持株比率は小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は自己株式(39,071,071株)を控除して計算しております。

株価と売買高の推移



詳細に関するお問い合わせ先

株式会社SANKYO 経営企画部 〒150-8327 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
TEL : 03-5778-7777 <https://www.sankyo-fever.co.jp/>

Good luck. Good life.



<https://www.sankyo-fever.co.jp/>